

第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和4年度
進行管理検証報告書

生駒市

目次

1	第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況評価について	1
	(1)第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	1
	(2)第2期総合戦略策定にあたっての経緯と今後の進行管理について	2
	(3)各取組項目の評価方法について	3
2	令和4年度取組状況検証結果 総括	4
	(1)評価結果の総括	4
	(2)地方創生推進交付金KPI一覧	6
	令和4年度施策の進捗状況検証結果 個票	7
	基本目標1 子育てしやすいまち	8
	1-1-1 出産に対する経済的支援	10
	1-1-2 産前産後ケアの充実	12
	1-2-1 就学前保育の機能強化	14
	1-2-2 学童保育の機能強化	18
	1-3-1 教育環境の充実	20
	1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進	24
	1-4-2 子育て世帯の交流促進	26
	1-4-3 地域で子育てを見守る体制の強化	28
	1-5-1 災害・犯罪等に対する安全性の向上	30
	基本目標2 働き盛り世代が希望の仕事のできるまち	34
	2-1-1 働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現	36
	2-2-1 産業の活性化	40
	2-2-2 起業支援	42
	2-3-1 子育て分野における就労の促進	44
	2-3-2 介護分野における就労の促進	46
	2-3-3 食に関する地域産業の創出	48
	基本目標3 働き盛り世代が住みたいまち	50
	3-1-1 まちの魅力発信や観光・交流の促進による交流人口の拡大	52
	3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進	54
	3-2-1 多様な主体との協創による都市ブランド形成	56
	3-2-2 協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出	60
	3-2-3 文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着や光`アップライト`の醸成	62
	附属資料	64
	1 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議要綱	65
	2 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 参加者名簿	66
	3 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価集約表	67

1 第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況評価について

(1)第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2期総合戦略」という。）は、国が定めた「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略（現在のデジタル田園都市国家構想総合戦略）及び「生駒市人口ビジョン〈改訂版〉」を勘案し定めたもので、第6次総合計画を特出し・深掘りした計画となっている。

第2期総合戦略では、働き盛り世代をターゲットとし、下図に示すように、3つの「基本目標」に示す将来像を展望して、「施策に対する基本的方向」（10項目）を定め、取組の内容として「具体的な施策」（20項目）を掲げている。

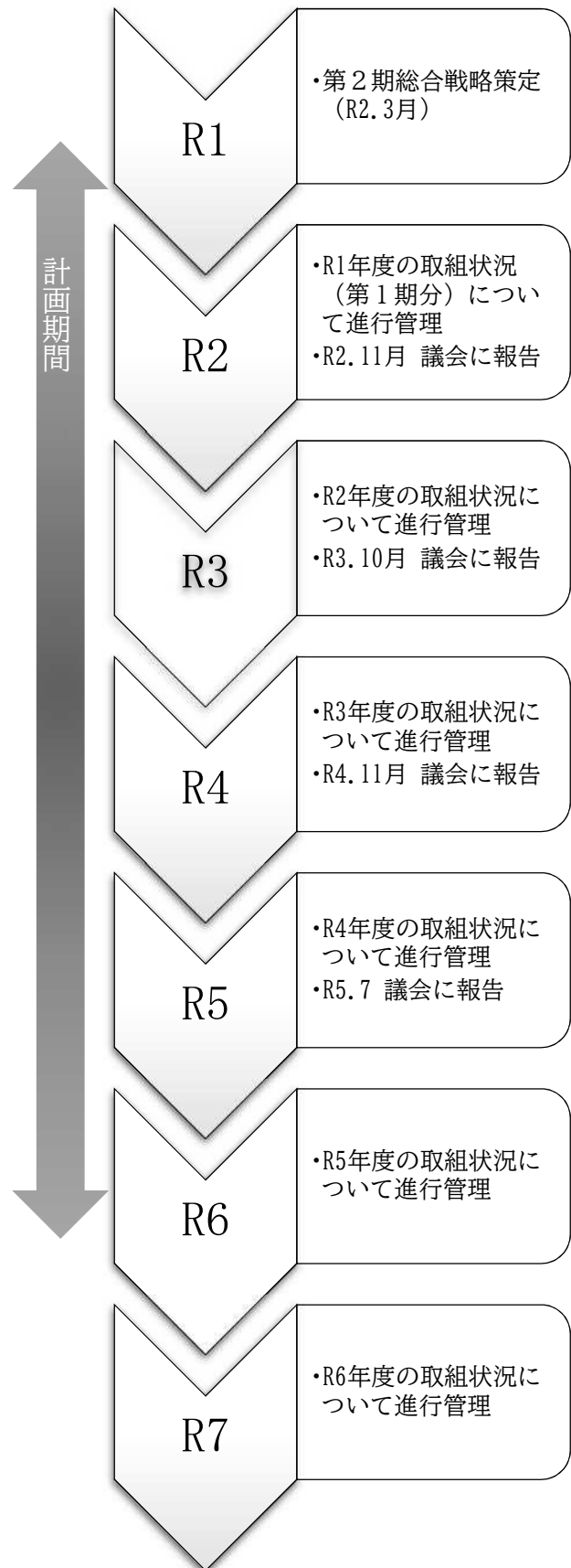
基本目標	施策に対する基本的方向	具体的な施策
1 子育てしやすいまち	1-1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する	1-1-1 出産に対する経済的支援 1-1-2 産前産後ケアの充実
	1-2 子育て世帯の時間のゆとりをつくる	1-2-1 就学前保育の機能強化 1-2-2 学童保育の機能強化
	1-3 子育て世帯にとって魅力的な教育を行う	1-3-1 教育環境の充実
	1-4 コミュニティ形成等を通して子育て世帯の精神的なゆとりをつくる	1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進 1-4-2 子育て世帯の交流促進 1-4-3 地域で子育てを見守る体制の強化
	1-5 子育て世帯が安心して生活できる地域をつくる	1-5-1 災害・犯罪等に対する安全性の向上
2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち	2-1 職場での多様な働き方を広げる	2-1-1 働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現
	2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる	2-2-1 産業の活性化 2-2-2 起業支援
	2-3 今後需要の増加が見込まれる事業分野における仕事や人材を育てる	2-3-1 子育て分野における就労の促進 2-3-2 介護・福祉分野における就労の促進 2-3-3 食に関する地域産業の創出
3 働き盛り世代が住みたま	3-1 働き盛り世代が移り住みたいまちをつくる	3-1-1 まちの魅力発信や交流の促進による交流人口の拡大
		3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進
	3-2 働き盛り世代を中心に幅広い世代が住み続けたいまちをつくる	3-2-1 多様な主体との協創による都市ブランド形成 3-2-2 協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出 3-2-3 文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成

(2)第2期総合戦略策定にあたっての経緯と今後の進行管理について

第2期総合戦略の計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間である。

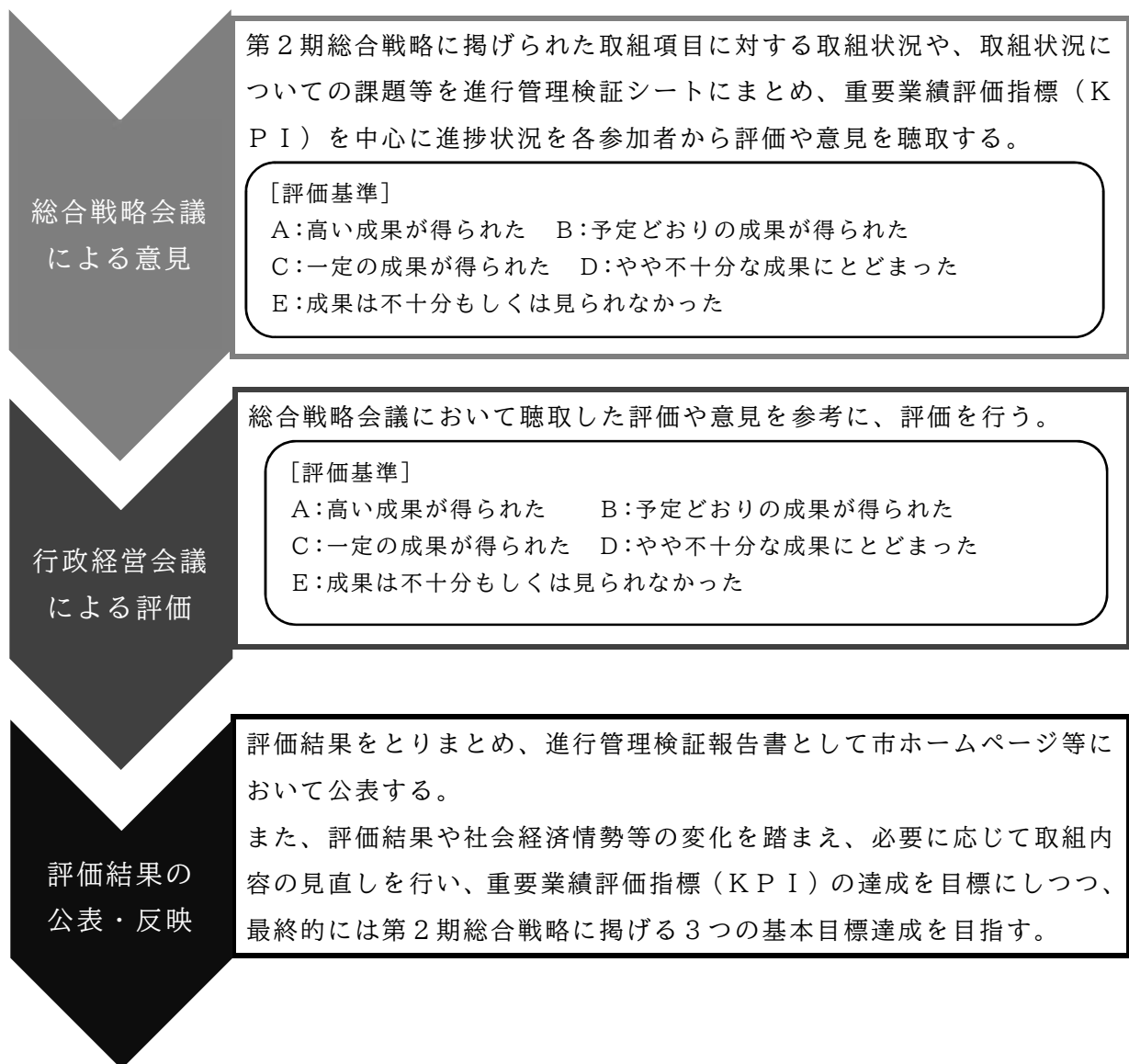
第2期総合戦略の進行管理については、計画期間内において確実な成果を達成するため、行政の執行部門と地域の事業関係主体とが、協働によりPDCAサイクルを実践することが可能となるよう、各担当部課が進捗状況を「生駒市行政経営会議」（以下、「行政経営会議」という。）に報告し、「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」（以下「総合戦略会議」という。）の意見を得ながら、行政経営会議において、計画の進捗状況を検証することになっている。

取組の評価は、毎年、前年度の取組状況について、総合戦略会議において評価や意見を聴取し、行政経営会議において決定する。また、報告書を議会に報告するとともに、市ホームページに公表する。



(3)各取組項目の評価方法について

進行管理を行うにあたって、令和5年5月18日に総合戦略会議（全体会）において、意見を聴取し、令和5年7月開催の行政経営会議において、市としての評価を行った。



2 令和4年度取組状況検証結果 総括

(1) 評価結果の総括

各具体的施策をA～E評価した結果は、下記のとおりとなっている。

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	0	0.0
B:予定どおりの成果が得られた	16	80.0
C:一定の成果が得られた	4	20.0
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	20	100.0

すべての分野において「C:一定の成果が得られた」という基準以上の評価がなされ、全体的に取組の成果が得られたと言える。また、「B:予定どおりの成果が得られた」という評価は、昨年より8分野増加している。コロナ禍における取組も一定評価された。

① 「基本目標1 子育てしやすいまち」の取組状況評価結果

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	0	0.0
B:予定どおりの成果が得られた	6	66.7
C:一定の成果が得られた	3	33.3
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	9	100.0

全ての項目で「C:一定の成果が得られた」以上となっている。「1-2-1 就学前保育の機能強化」においては、小規模保育園の公募やマタニティコンシェルジュのサポートなどの取組の結果、令和5年4月1日時点の実質待機児童数を0人にすることができた。また、「1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進」では、情報発信ツールを増やし、Twitter等の発信回数を増加させたことで、子育て層にスピード感をもって情報を届けることができた。

②「基本目標2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち」の取組状況評価結果

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	0	0.0
B:予定どおりの成果が得られた	5	83.3
C:一定の成果が得られた	1	16.7
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	6	100.0

6項目全てが「C:一定の成果が得られた」以上となっている。「2-2-1 産業の活性化」については、アウトカム指標である「立地企業の新規雇用者数」が順調に増加しており、生駒市内で働く環境が整ってきている。また、「2-2-2 起業支援」については、アウトカム指標として設定している「イコマドにおけるインキュベーション、コワーキング利用件数」や「奈良県よろず支援拠点における起業に関する相談件数」が高水準で推移しており、コロナ禍における多様な働き方を推進することができた。

③「基本目標3 働き盛り世代が住みたいまち」の取組状況評価結果

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	0	0.0
B:予定どおりの成果が得られた	5	100.0
C:一定の成果が得られた	0	0.0
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	5	100.0

5項目全てが「B:予定どおりの成果が得られた」以上となっている。コロナ禍において、イベント等の開催が制限される厳しい状況であったが、情報発信に注力し市内外にPRを継続したことで、働き盛り世代の純移動数が目標値を上回った。また、良質な住宅ストックを有する本市の特徴を活かし、空き家流通促進プラットフォームの取組を進めるなどしたことで「3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進」におけるアウトカム指標「流通促進奨励金及びプラットフォーム成約による市外から空き家への転入世帯数」が増加するなど、効果的に取組を進めることができた。

(2)地方創生推進交付金K P I 一覧

100の複合型コミュニティづくりを核とした“自分らしく輝けるステージ・生駒”
推進事業

期間 (R3-R5)	K P I	目標値	実績値
		R 4	R 4
K P I ①	働き盛り世代(25～44歳)の純移動数(対前年比)	+30人	-11人
	働き盛り世代(25～44歳)の純移動数	-26人	+99人
K P I ②	本事業を通じた関係人口数	120人	311人
K P I ③	コミュニティビジネス開業支援における新規開業 件数	5件	1件
K P I ④	本事業を通じた担い手育成事業の参加者数	30人	72人

令和4年度
施策の進捗状況検証結果
個票

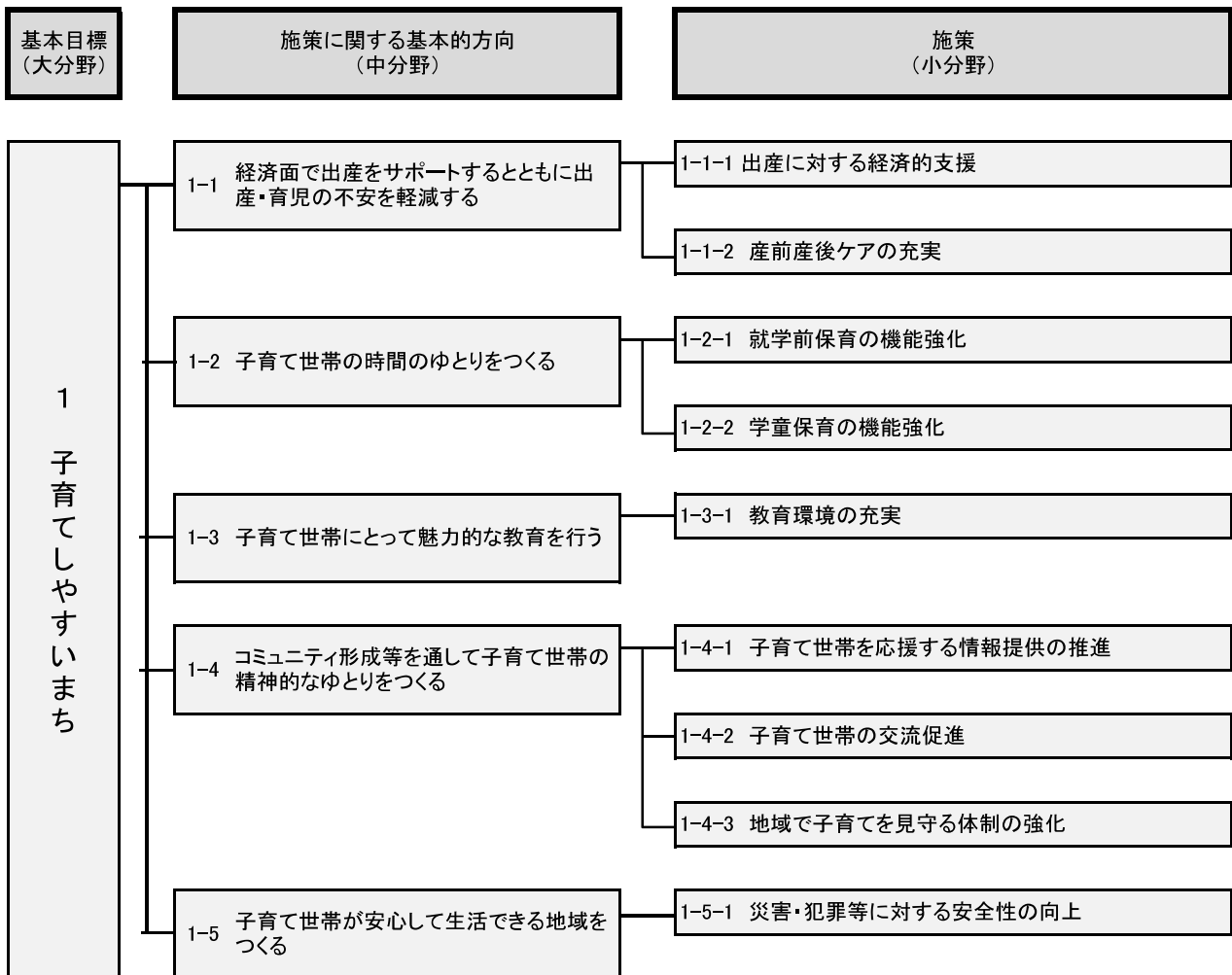
基本目標	1	子育てしやすいまち
------	---	-----------

■目指す姿

多様な保育サービスの利用やコミュニティでの支え合いの中で、子育て世帯が不安なく希望の子どもを持ち、ゆとりをもって生活(子育て)している。

■数値目標		
目標指標1①	現状値(H29)	目標値(R6)
合計特殊出生率	1.27人	1.44人
目標指標1②	現状値(R1)	目標値(R6)
子育て世帯の住みやすさの満足度	5.52点	6.02点

■施策体系



■数値目標のグラフ

目標指標1① 合計特殊出生率(人)			
	R3目標値	〈指標の説明〉 女性が一生のうちに産む子どもの数を示したものの。翌年1月1日現在の住民基本台帳をもとに市で独自に算出。出生率向上に向けた施策を実施することにより、令和6年度には1.44人を目指します。	
	1.38		
	R3実績値		1.21
	達成状況		×

目標指標1② 子育て世帯の住みやすさの満足度(点)			
	R4目標値	〈指標の説明〉 市民実感度調査(旧市民満足度調査)における「総合的な住みやすさの満足度」を7点満点で評価したもの。就学前の子ども、小学校・中学校の子どもを持つ回答者の平均値。子育て支援を充実させ、毎年度0.1点増やし、令和6年度には6.02点を目指します。 ※ H29・R2・R3は郵送調査、H28・H30・R1実績値はWEB調査、R4実績値は郵送で依頼し、回答は郵送もしくはWEB	
	5.92		
	R4実績値		4.97
	達成状況		×

■基本目標実現への効果等

令和4年度についても、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、新生児・乳児家庭訪問事業における現認や、ひろば事業等で大きく影響があったが、マタニティコンシェルジュをはじめ、妊娠期からの切れ目ないサポートを継続することで、子育て世帯がゆとりを持って子育てできる環境整備に取り組んだ。

保育環境の整備においては、小規模保育所の誘致による定員の増加や保育コンシェルジュのサポート等により、令和5年4月1日時点の実質待機児童数が0人になった。また、全幼稚園において、従前の夏休みに加え、冬休み・春休みにおける預かり保育を開始するなど、多様化するニーズに対応している。

一方で、指標である「合計特殊出生率」及び「子育て世帯の住みやすさの満足度」は、目標値に届いていない。出産・子育て等へのサポートを継続するだけでなく、労働環境や住環境など、生活全般に関わる環境整備が求められる。

令和4年4月からの一般不妊治療の保険適用や、令和5年4月からのこども家庭庁の創設に加えて、国における少子化対策の大幅な拡充に向けた検討など、出産・子育て支援に関する社会的な変化が起こりつつある。こういった変化を捉えつつ、多様なニーズに対応し、子育て世帯が不安なく希望の子ども数を持ち、ゆとりをもって生活(子育て)できるよう各課連携して、サポートする必要がある。

小分野	1-1-1	出産に対する経済的支援
-----	-------	-------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	不育症治療費及び一般不妊治療費助成 子どもを望む夫婦の出産に関する経済的な負担を軽減するため、不育症治療費や一般不妊治療費に対する助成を行います。	健康課
■令和4年度取組状況(D)		
H28年度から不育症治療費助成事業を実施している。R4年度は、不育症治療に要した検査費と治療費(医療保険適用分及び適用外分)の本人負担額の1/2(上限15万円)を助成した。 H29年度から一般不妊治療費助成を実施している。R4年度は、一般不妊治療費に要した検査費と治療費(医療保険適用分及び適用外分)の夫婦の負担額の1/2(上限5万円)を助成した。		
■成果(C)		■課題(C)
R4年度 不育症治療費助成 支給件数:延べ6件 一般不妊治療費助成 支給件数:延べ82件		両事業を実施することで、子どもを望む夫婦の経済的負担の軽減につながっていることから、今後も財源を確保し、継続して実施する必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
R4年4月から一般不妊治療は医療保険適用となった影響が、1件あたりの助成額の平均が昨年度までと比較して下がっていると考えられる。H30年度から、予算の関係上、助成対象を「第1子に係る不妊治療」と限定していたが、R5年度から第2子以降に係る治療も対象とし、より多くの子どもを望む夫婦の支援を行っていく。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	母子保健の充実 健やかな妊娠・出産を迎えるため、妊婦一般健康診査の費用助成を行います。また、疾病の早期発見・治療、障がいの早期発見、育児支援等のため、乳幼児健康診査・訪問指導・育児教室・子育て相談などを行います。	健康課
■令和4年度取組状況(D)		
乳幼児健康診査(3か月児、7か月児、12か月児、3歳6か月児)を小児科医療機関の協力のもと実施し、受診しやすい環境整備を行った。また、1歳6か月児については、多職種が関わる集団健診を実施し、育児支援を行った。情報発信に関しては、個別案内文書の内容を見直し、より理解しやすい内容に工夫したり、電子版親子手帳「母子モ」によるプッシュ配信を実施したり、対象者に的確な情報が届くよう取り組んだ。		
■成果(C)		■課題(C)
R4年度乳幼児健診受診率 87.3%(暫定値) ※確定値は翌年度12月頃に確定		健診未受診者に対し、今後も受診勧奨や未受診追跡等を継続して実施する必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
乳幼児健診対象者への個別通知を継続し、健診の必要性を対象者に周知する。また、健診未受診者には未受診追跡等を継続して実施する。 さらに、育児教室や子育て相談を定期的に行い、育児支援に努める。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント ・本来の目的は、安心して出産できる環境を整え、出産が促進されることである。出産人数等も成果(アウトカム)になり得ると思うので、実績値など把握されたい。 ・市民実感が低下している。アンケートの対象者を全市民にするのではなく、子育て世代に絞るなどすると、より精緻な実態把握が可能になる。
	1	1	5			

[評価基準] A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 不育症治療費及び一般不妊治療費助成のPR件数(件)	①-A 不育症治療費助成支給件数(件)(累計)
R4目標値	R4目標値
5	46
R4実績値	R4実績値
7	34
達成状況	達成状況
○	×
	①-B 一般不妊治療費助成支給件数(件)(累計)
	R4目標値
	410
	R4実績値
	485
	達成状況
	○

■ KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 乳幼児健診受診率(%)	②-A 育児に関する市民実感度(点)
R4目標値	R4目標値
96.2	74.0
R4実績値	R4実績値
87.3	62.3
達成状況	達成状況
×	×

※確定値は翌年度12月頃に確定。H28以前の暫定値は前年度対象者の当該年度受診者を含む。

■ 令和4年度評価結果

C : 一定の成果が得られた

小分野	1-1-2	産前産後ケアの充実
-----	-------	-----------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	マタニティコンシェルジュの配置 妊娠・出産・育児に関する様々な不安解消のため、専門職であるマタニティコンシェルジュを配置し、母子健康手帳交付時からの全妊婦との面接、ケアプランの作成、各種サービスの案内など、妊産婦を細やかにサポートします。	健康課
■令和4年度取組状況(D)		
マタニティコンシェルジュが、妊娠期から関わりのある妊産婦等に妊娠期から出産後にかけて電話などで状況確認し、アドバイスを行った。 産後は「ママとベビーのおっぱい相談会」を開催し、助産師が授乳指導や育児相談を行った。 地区担当保健師とマタニティコンシェルジュが連携して、妊娠期からの継続的な支援を行うことで、妊娠期から子育て期の支援を充実させた。		
■成果(C)		■課題(C)
【相談件数】 R4年度:835件(うち発信522件・着信313件) マタニティコンシェルジュからの発信を含めた相談件数は、コロナ禍のR3年度から増加しており、妊産婦の不安解消につながっている。		新型コロナウイルス感染症の影響により、SNS等の偏った情報で不安になる産婦が多くなっている。引き続き、地区担当保健師とマタニティコンシェルジュが連携し、継続的に支援することで、問題が深刻化する前に支援できる体制が必要である。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
母子健康手帳交付時におけるマタニティコンシェルジュによる面接を継続し、支援が必要な家庭を速やかに支援できるようにする。 また、伴走型相談支援の一環として妊娠8か月頃の全妊婦にアンケートを実施し、必要に応じて面談・電話等で支援を実施すると共に、出産後の全ての家庭に電話にて状況確認を行い、支援が必要な家庭を速やかに支援につなぐことができる体制を整える。また、地区担当保健師とも連携し、支援が必要な家庭に既存の事業を周知・活用することで、安心して子育てができる環境づくりを行う。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	産後サポートの充実 産後の心身の安定と育児不安を解消するため、各種育児相談に応じるほか、産婦・新生児や乳児訪問、家庭訪問を実施します。また、健康づくりリーダー等が、産婦や子育て中の保護者の相談相手やサポート役になります。	健康課
■令和4年度取組状況(D)		
新生児・乳児家庭訪問事業により各家庭を訪問し、育児の支援及び家庭の状況確認を行った。新型コロナウイルス感染拡大により訪問を希望されない家庭には、玄関先での確認又は来所での確認や電話での育児状況の聞き取り等を行い、臨機応変に対応した。		
■成果(C)		■課題(C)
R4年度 新生児・乳児訪問実施率 97.9%		コロナ禍において様々な感染防止対策を講じた上で対応したが、家庭訪問自体を遠慮され、電話での対応やコロナを理由に訪問希望されない方も未だ見受けられた。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
感染症に関する不安を理由に訪問を拒否される家庭に対して、感染対策を講じながら新生児・乳児家庭訪問を継続的に実施する。 また、伴走型相談支援がスタートし、以前から実施している新生児訪問・こんにちは赤ちゃん訪問事業としての面談が、支援を行ううえで必要となってくるため、より積極的な訪問勧奨を行っていく。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	2	4	1			
・子育て支援イベントの主宰者など、市民との接点が多い団体や個人から有益な情報を得られることがある。連携を強化し情報収集に努められたい。 ・コロナ禍を経て活動団体が減少傾向である。団体への支援も行うことで、多くの場作りを進めることができる。						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 マタニティコンシェルジュへの相談件数(件)	①-A 育児について相談する相手がいる人の割合(%)
R4目標値	R4目標値
237	89
R4実績値	R4実績値
313	98.8
達成状況 ○	達成状況 ○

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 新生児・乳児訪問の実施率(%)	②-A 産後の専門職による支援の満足度(%)
R4目標値	R4目標値
99.1	79.0
R4実績値	R4実績値
97.9	75.1
達成状況 ×	達成状況 ×

■令和4年度評価結果
B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	1-2-1	就学前保育の機能強化(Ⅰ)
-----	-------	---------------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 保育所の整備	増加する保育需要に対応するため、従来から取り組んでいる保育所の整備や幼稚園のこども園化に加え、小規模保育事業や市内企業への働きかけによる企業主導型保育事業を推進し、待機児童の多い地域を中心にその解消に取り組みます。	幼保こども園課
■令和4年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> 待機児童が多い地域を対象として、定員増加を図るため小規模保育を公募し、事業者として決定した小規模保育所「サンライズキッズ保育園西松ヶ丘園」の令和5年4月1日開設を目指して取組を進めた。 令和3年11月の「生駒市立幼稚園の再編に係る方向性について」により俵口幼稚園、なばた幼稚園を当面存続することとし、地域や保護者等の関係者との協働本部「えん・くろす」を立ち上げ、魅力的な園づくりに向け取組を行った。 		
■成果(C)	■課題(C)	
小規模保育所「サンライズキッズ保育園西松ヶ丘園」の開設により、0～2歳の定員19人を確保できた。また、令和5年4月1日入所時点の実質待機児童が0人となった。	入園希望園が、駅周辺の園に集中する等、地域によって定員充足率が異なっている。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
令和4年度と同様に、小規模保育または家庭的保育の事業者を公募し、早ければ令和5年度中、遅くとも令和6年4月からの開園を目指す。公募にあたっては、幅広く事業者を募ることができるよう、周知方法等を工夫する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
② 保育士の確保	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促し、待機児童の解消に取り組みます。	幼保こども園課
■令和4年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> 常時勤務を要する職員に対して、給与加算を支出している事業者に対し、市単独の給与改善費補助金を交付し支援した。 潜在保育士を発掘するため、「保育園・こども園見学ツアー」(3コース各1回)、「資格をいかそう相談会」(2回)及び職場体験(インターンシップ)(2回)を実施した。 		
■成果(C)	■課題(C)	
<ul style="list-style-type: none"> 給与加算に対する補助金を交付し、処遇改善を行うことで、保育士の確保を図ることができた。 「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)の参加者から、フルタイム、パートタイムを併せ、6人を雇用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、一定の保育士の退職があるため、引き続き処遇改善を進めるとともに、新たな保育士の確保にも努める必要がある。 保育士の働き方における負担の多さから、敬遠される傾向があるため、業務負担の軽減及びイメージ改善に向けた取組が必要である。 	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度から私立保育所保育士に対する処遇改善補助金を短時間勤務保育士へ支給し、収入の改善を図る。 処遇改善に向け、継続勤務いただいた非正規の常勤保育士へ令和6年度から保育士サポート手当を支給できるよう、申請の受付を開始する。 保育士業務の軽減につながるよう導入した園支援システムの活用にも努める。 「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)を実施する。 		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 保育所利用定員数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R5目標値</td><td>2,725</td></tr> <tr><td>R5実績値</td><td>2,671</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R5目標値	2,725	R5実績値	2,671	達成状況	×	<p>①-A 実質待機児童数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R5目標値</td><td>6</td></tr> <tr><td>R5実績値</td><td>0</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R5目標値	6	R5実績値	0	達成状況	○
R5目標値	2,725												
R5実績値	2,671												
達成状況	×												
R5目標値	6												
R5実績値	0												
達成状況	○												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>②-1 「資格をいかそう！相談会」参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>40</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>26</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	40	R4実績値	26	達成状況	×	<p>②-A 「資格をいかそう！相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数(人)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>11</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>28</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	11	R4実績値	28	達成状況	○
R4目標値	40												
R4実績値	26												
達成状況	×												
R4目標値	11												
R4実績値	28												
達成状況	○												
<p>②-2 保育所入所児童数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R5目標値</td><td>2,725</td></tr> <tr><td>R5実績値</td><td>2,344</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R5目標値	2,725	R5実績値	2,344	達成状況	×							
R5目標値	2,725												
R5実績値	2,344												
達成状況	×												

小分野	1-2-1	就学前保育の機能強化(Ⅱ)
-----	-------	---------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③	保育コンシェルジュの活用 増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、保育コンシェルジュを配置し、保育の需要と供給のミスマッチを解消することで、待機児童の解消に取り組めます。	幼保こども園課
■令和4年度取組状況(D) ・偏りがちな入所希望先の均衡を図り待機児童の解消につなげるため、再任用職員1人を補助としてパートタイム会計年度任用職員1人を配置し、年間で629件の相談を受けた。 ・市内の保育園・幼稚園・こども園の紹介や子育て支援の情報を集めた保育コンシェルジュブックを作成し、市ホームページに掲載することで情報発信を行った。		
■成果(C) ・入所希望家庭の事情にあったきめ細かな入所案内を行うことで、待機児童数を削減することができた。 ・希望する園を利用できなかった場合のアフターフォローを実施することができた。		■課題(C) ・働き方の変化に伴い、今後も保育需要が増加が見込まれるため、引き続き待機児童解消のための取組は必要である。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A) ・継続して、保育コンシェルジュを活用し、相談業務体制の充実に努める。 ・市役所から出向いて相談業務を実施する出前相談会の実施回数を増やす。		

■具体的な取組(P)		■担当課
④	就学前保育・教育サービスの充実 働き方が多様化することに伴う、就学前保育・教育サービスのニーズの多様化に対応するため、保育所における延長保育や一時預かり保育、休日保育、病児・病後児保育等を実施するとともに、幼稚園における預かり保育を実施します。また、時代に応じた就学前保育・教育ニーズの変化を把握し、さらなるサービスの充実に向けた検討を行います。	幼保こども園課
■令和4年度取組状況(D) ・公立保育所4園、私立保育所23園のうち、延長保育:全園、一時預かり保育:私立9園、休日保育:私立1園、病児保育:私立2園、病後児保育:私立1園、病後児保育(体調不良児対応型):私立8園でそれぞれ実施した。 ・幼稚園での預かり保育については、令和2年度から全園で水曜日実施、きょうだい減免の設定などサービスを充実させるとともに、さらなる拡充に向け、1園で夏休み期間中の預かり保育をモデル実施した。 令和4年度については、全幼稚園において、冬休み・春休み期間中の預かり保育を新たに実施した。		
■成果(C) ・保育所、幼稚園ともに、多様化するニーズに、一定対応することができた。		■課題(C) 今後も、就学前保育・教育に関するニーズは多様化が見込まれるため、常に変化を把握し、柔軟に対応することが必要である。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A) ・保育園における延長保育、一時預かり保育など、令和5年度も継続して実施する。 ・幼稚園での預かり保育時間を9月から30分延長できるようすすめる。 ・市立保育所及びこども園において、午睡用簡易ベッドを導入し、保護者の登降園時の負担を軽減する。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	3	3			
・令和4年度は保育士の採用人数が増加している。取組や工夫が採用増加につながっているはずなので、要因を分析のうえ今後につなげられたい。 ・在宅で仕事をしつつ子育てをするなど、働き方や子育て環境は多様化している。働くことと子育てのバランスが良くなるよう、就労に関する部局とも連携しながら取組を進められたい。						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>③-1 保育コンシェルジュ相談件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>603</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>629</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	603	R4実績値	629	達成状況	○	<p>③-A 実質待機児童数(人)【再掲】</p> <table border="1"> <tr><td>R5目標値</td><td>6</td></tr> <tr><td>R5実績値</td><td>0</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R5目標値	6	R5実績値	0	達成状況	○
R4目標値	603												
R4実績値	629												
達成状況	○												
R5目標値	6												
R5実績値	0												
達成状況	○												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>④-1 保育所での一時預かり保育利用児童数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>6,900</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>4,245</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	6,900	R4実績値	4,245	達成状況	×	<p>④-A 保育サービスの満足度(点)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>58</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>51</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	58	R4実績値	51	達成状況	×
R4目標値	6,900												
R4実績値	4,245												
達成状況	×												
R4目標値	58												
R4実績値	51												
達成状況	×												
<p>④-2 保育所での休日保育利用児童数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>100</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>41</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	100	R4実績値	41	達成状況	×	<p>アウトプット</p>						
R4目標値	100												
R4実績値	41												
達成状況	×												
<p>④-3 病児・病後児保育利用児童数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>1,800</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>1,362</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	1,800	R4実績値	1,362	達成状況	×	<p>④-4 幼稚園での預かり保育利用園児数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>20,055</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>19,866</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	20,055	R4実績値	19,866	達成状況	×
R4目標値	1,800												
R4実績値	1,362												
達成状況	×												
R4目標値	20,055												
R4実績値	19,866												
達成状況	×												

令和4年度評価結果
<p>B : 予定どおりの成果が得られた</p>

小分野	1-2-2	学童保育の機能強化
-----	-------	-----------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 学童保育の充実	増加する保育需要に従い増加する学童需要に対応するため、学童保育環境の改善を図るとともに、柔軟な働き方や待遇改善を進めながら学童指導員の確保に取り組みます。また、民間保育事業者における学童保育事業を推進します。	こども総務課
■令和4年度取組状況(D)		
各学童施設の修繕や改修を適宜行うとともに生駒台学童においては、余裕教室を学童仕様に改修し、備品等を充実させる等、学童保育環境の整備を行った。また、柔軟な働き方に対応するため、学童指導員の職種を細分化し、併せて処遇改善を行い勤務条件の向上を図った。さらに増加する保育需要に対し、放課後児童クラブ施設整備・運営事業者選定に係る公募型プロポーザルを実施した。その他には、指導員向けに各種研修(衛生管理、緊急時の対応、危機管理、職場環境の改善等)を実施し、知識の向上及び能力の向上等、保育の質の向上に取り組んだ。		
■成果(C)	■課題(C)	
令和5年4月1日民間学童保育所が新たに1か所開所した。指導員の必要人数を確保した。指導員向けの各種研修を実施することで、指導員の知識及び能力の向上に寄与した。	生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所への入所を希望する傾向が強く、今後増加が予想される学童保育のニーズに対応するためにも、民間学童保育所事業を推進する必要がある。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
民間学童への入所が増えるよう送迎支援や魅力ある保育内容など事業者と協働して取組を進める。指導員向けに各研修を継続して実施する。また、変化する社会環境や社会のニーズに合わせて、研修内容の変更等も検討する。		

■総合戦略会議からの令和4年度取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	2	4	1			
・学童保育のニーズは増加傾向であり、今後民間学童の活用は必須である。保護者に対して、民間学童のメリットや魅力が伝わっていないことが、利用者の増加を阻害していると思われる。市と事業者と連携してPR等力を入れられたい。						

[評価基準] A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 生駒市学童保育運営協議会による学童保育実施箇所数(箇所)</p> <table border="1"> <tr><td>R5目標値</td><td>27</td></tr> <tr><td>R5実績値</td><td>27</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R5目標値	27	R5実績値	27	達成状況	○	<p>①-A 学童保育サービスの満足度(点)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>58.0</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>53.8</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	58.0	R4実績値	53.8	達成状況	×
R5目標値	27												
R5実績値	27												
達成状況	○												
R4目標値	58.0												
R4実績値	53.8												
達成状況	×												
<p>①-2 民間保育事業者による学童保育実施箇所数(箇所)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>7</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>7</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	7	R4実績値	7	達成状況	○							
R4目標値	7												
R4実績値	7												
達成状況	○												

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	1-3-1	教育環境の充実(Ⅰ)
-----	-------	------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	ICTを活用した教育の推進 教員の指導力の育成を図るとともに、分かりやすい授業を実施し、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境を整え、確かな学力を育成するために、ICT機器を積極的かつ効果的に活用した授業を行います。また、小学生からのプログラミング教育の必修化に対応した取組を進め、奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校との連携を進めます。	教育指導課
■令和4年度取組状況(D)		
GIGAスクール構想に基づき、配備された1人1台タブレット端末の利活用を進めるために、学習支援アプリ「ロイノート」や学習ドリルアプリ「ライブラリ」について、教員向けの企業を招いた研修を複数回実施した。また、各校の情報担当者に対し、市教委からは指導を行うだけでなく各校の取組について相互に発表を行い、各校の活用推進を図った。さらに、ICT支援員を各校週2回程度配置し、教員の業務支援や情報モラルに関する研修を行った。職員の働き方改革を目的とし導入された統合型校務支援システムの活用を各校で進めるために利用方法や市教委の方針などについて情報共有を行った。加えて、出席停止期間中のオンライン授業や、オンライン参観・懇談会、タブレット端末の授業での活用など、各校での取組を情報担当者向け研修やICT支援員を通して共有することで情報の横展開を行い、ICT機器活用能力のポトムアップを行った。また、先端科学技術大学院大学との連携した出前講座を全中学校で実施した。		
■成果(C)		■課題(C)
Google workspace for Educationや、ロイノートなどの協同学習ソフトを活用することで学びを深める活動ができた。また、キャリア教育でも積極的にICTを活用することで、ICT機器の利活用を進めた。ICT支援員による研修を行い、教職員だけでなく児童生徒の情報モラルについて啓発することができた。		奈良工業高等専門学校との連携が新型コロナウイルス感染症の影響で令和4年度も実施できなかった。ICT機器を活用した取組が進んできているが、学校ごとの差があるので、利活用に向けたポトムアップは引き続き必要である。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
ICTの利活用を進めるため、各校からICT担当職員の集まる場を設けたり、ICT支援員を活用することにより、情報の横展開を進めるとともに、引き続き各校の取組を共有していく。情報端末の活用が進んできているので、主体的・対話的で深い学びを行うための有効的な活用方法について研修を行っていく。また、キャリア教育においても積極的にICTツールを活用していき、文部科学省が示しているICT機器を活用した「令和の日本型教育」のいこまモデルの構築を進める。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	英語教育の推進 小学校で英語の基礎的な力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図るため、小中9年間を見通したカリキュラムを作成したうえでの外国語指導助手(ALT)の配置や、小学校1年生から市独自の教材を使用する等、子どもの興味関心を引くよう工夫しながら、小学校のすべての学年で英語教育に取り組みます。	教育指導課
■令和4年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年及び2年において、外国語活動を年10時間実施。市独自の教材を用いて、全時間ALTが授業に参加。 ・小学校3年及び4年において、外国語活動を年35時間実施。内、ALTが16時間授業に参加。 ・小学校5年および6年において、外国語科の授業を年70時間実施。内、ALTが16時間、わくわくイングリッシュサポーターが15時間授業に参加。 ・中学校1年～3年において、外国語科の授業140時間実施。内、ALTが15時間参加。 ・生駒市英語教育担当者会議を2回開催し、市独自の英語カリキュラムの内容確認や、英語教育に関する小中連携の必要性について確認した。		
■成果(C)		■課題(C)
小学校1年生から英語に慣れ親しむことにより、英語を使うことやALTとコミュニケーションをとることに抵抗がない児童生徒が年々増えている。		R3年度から中学校において新学習指導要領が全面実施され、小学校6年生と中学校1年生の学習内容に大きな隔りがある。子どもたちの学びをスムーズに接続できるように小中が連携する必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度同様、ALTおよびわくわくイングリッシュサポーターを配置する。 ・生駒市英語教育小中連携会議を2回開催する。また、中学校区ごとに小中間の教員交流、授業参観、出前授業などを具体的に計画・実施し、小中連携を押し進める。 		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 小中学校教員が授業にICTを活用して指導する能力(%)	①-A 児童(小6)の授業でのICT活用への意欲度(%)
R4目標値 73.0	R4目標値 90.0
R4実績値(※) 94.3	R4実績値(※) -
達成状況 ○	達成状況 -
	①-A 生徒(中3)の授業でのICT活用への意欲度(%)
	R4目標値 81.0
	R4実績値(※) -
	達成状況 -

※R3年度以降は全国学力状況調査から項目が無くなったため、実績値なし。

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 英検準1級以上の英語力を有する中学校英語担当教師の割合(%)	②-A 英検3級相当以上の英語力を有する中学生の割合(%)
R4目標値 67.0	R4目標値 63.0
R4実績値(※) 29.0	R4実績値(※) 59.7
達成状況 ×	達成状況 ×
②-2 英検準1級以上の英語力を有する小学校英語担当教師の割合(%)	※令和2年は「英語教育実施状況調査」(文部科学省)が未実施だったため実績値なし
R4目標値 6.0	
R4実績値(※) 0.1	
達成状況 ×	

小分野	1-3-1	教育環境の充実(Ⅱ)
-----	-------	------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③	<p>夢を与える講演会・学校創造推進事業</p> <p>自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って、将来、社会で活躍できる人材の育成に努めていくため、市民や市出身者をはじめとする各界で活躍する方(文化人、スポーツ関係者、事業者等)を招き、子どもたちが優先して参加できる、夢を与える講演会を実施するなど、特色ある教育活動を実施します。また、子どもたちが、失敗を恐れず、新しいチャレンジに挑戦できる機会を確保できるよう支援します。</p>	教育指導課
■令和4年度取組状況(D)		
<p>学校創造推進事業については、長引くコロナ禍においても、動物とのふれあいや栽培活動など、できる範囲で各校が特色ある体験学習等を実施。キャリア教育については、現場のニーズに対応しハンドメイドで設計するというスタンスを維持し取組を推進。主な取組として、コロナ禍で実施することが難しい職業体験について、令和3年度に引き続きオンラインを活用した職業体験を実施。この取組には複数校が参加し、8つの企業・団体と連携しながら、与えられたミッションに対し受注を目指し、企画を企業にプレゼン提案するというビジネスのプロセスを子どもたちが体験した(生駒中、上中、光明中が参加)。</p> <p>また、平和学習WEEKと題して、小学校を対象に1週間児童が多様な視点から平和について考え、自分ごととして日々の行動に移すキッカケとなることを目指す取組を実施した(6つの小学校が参加)。生駒南第二小では、縦割り活動を活用し、1年かけて子どもたち目線の地域のデジタル図鑑アプリ「にしょロボくん」を引き続き実施するとともに、この取組は、俵口小学校でも「たわらぐちビーンズ」として横展開されている。これらの取組は、生駒市教育委員会公式noteで発信している。</p>		
■成果(C)	■課題(C)	
<p>コロナ禍でキャリア教育を進めるにあたり、1人1台端末を最大限活用することで、リモートでの対応など引き続きICTの利活用についても進めた。双方向、異学年、異学校、企業、海外との交流など様々な形での取組を実施した。また、学校現場での課題に対し、1つ1つ異なったハンドメイドの取組を進めたことにより、更に学校における満足度を高めることができた。</p>	<p>キャリア教育については、1つ1つ異なったハンドメイドの取組を進めたことにより、学校における満足度を高めることができた一方、担当者の負担が過度になり過ぎた。今後の継続性を加味した取組手法を検討する必要がある。</p>	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<p>キャリア教育の進め方としては、現場のニーズに対応しハンドメイドで設計するというスタンスは維持することに加えながら、これまで取組ごとの募集であったものを、先生を募集する形に変更することを検討している。こうすることで、取組の横展開がしやすくなるとともに、情報を共有しやすくなり、先生主体の取組が進みやすくなると考えている。</p> <p>学校創造推進事業については、引き続き、「特色ある」「信頼される」「開かれた」教育活動や学校づくりをさらに充実発展させるための取組を進めることに加え、R4年度に引き続き子どもたちが日々のSOSを出しやすくなるための取組を進める。</p>		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	1	5			
<p>・不登校について、自宅での状況も確認する必要がある。例えば、オンラインで授業を受けているのか、昼夜逆転で全く授業に参加できていないなど、状況はさまざまである。</p> <p>・ICT化は急速に進んでいる。現場の意識改革が大切であり、単にICTを使うのではなく、教え方の変化にまでつながっているかが重要である。先生自身が新しい技術に興味を持ち、実際に活用し、時代に合った生き方をすることが必要なので、体験できる仕掛けを考えられたい</p>						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>③-1 学校創造推進事業の実施回数(回)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>1,580</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>1,905</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	1,580	R4実績値	1,905	達成状況	○	<p>③-A 自分にはいいところがあると思う児童生徒の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>83.0</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>77.7</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	83.0	R4実績値	77.7	達成状況	×
R4目標値	1,580												
R4実績値	1,905												
達成状況	○												
R4目標値	83.0												
R4実績値	77.7												
達成状況	×												
<p>③-2 生駒こどもチャレンジ補助事業の実施回数(回)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>6</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>2</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	6	R4実績値	2	達成状況	×							
R4目標値	6												
R4実績値	2												
達成状況	×												

■ 令和4年度評価結果

C : 一定の成果が得られた

小分野	1-4-1	子育て世帯を応援する情報提供の推進
-----	-------	-------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	子育て世帯向けの多様な情報発信 子育て世帯が子育てに関する情報を容易に取得できるよう、妊娠・出産・子育てに関する知識やスキルを修得するための機会や情報を提供する講座を開催するとともに、乳幼児の予防接種や定期健診等のスケジュールなどの情報を、電子版親子手帳やオープンデータを活用した多様なツールを利用して発信していきます。	子育て支援総合センター 健康課 デジタル推進課 広報広聴課

■令和4年度取組状況(D)

【健康課】
乳幼児の予防接種や定期健診のスケジュールだけでなく、妊婦向けの教室や育児相談のスケジュールについても電子版親子手帳を活用し、情報発信を行った。また、妊娠届出時、乳児家庭全戸訪問事業や転入時に電子版親子手帳を周知するとともに、妊娠期の妊婦を対象とした教室でも、電子版親子手帳内にある動画を利用し沐浴方法等の説明や、電子版親子手帳の利用方法の周知を行った。

【広報広聴課】
・既存の情報発信ツール(広報紙、ホームページ、Twitter、Facebook、Instagram、LINE、チラシ・ポスター、カタログポケット)で、それぞれの特徴を生かしたタイミングや内容を精査し、情報発信したほか、新たなSNSとして、noteとピアZZの運用を開始した。特に、生駒市エリアを開設したピアZZの主な利用者は30～40代で、子育て・働き盛り世代が地域で交流し、コミュニケーションを高めるのに適したツールであり、利用者を増やすために市からも積極的に情報を発信(概ね週1回程度)した。
・広報紙において、子育て世帯向けの連載ページとして情報を集約し発信した。

【子育て支援総合センター】
新型コロナウイルス感染症対策で、多くの事業で事前申込をしてもらう必要があり、CMSの申込フォームも活用しながら募集を行った。利便性の向上のほか、業務効率化等の改善を行い、SNSを活用した情報発信を積極的に実施した。

■成果(C) ■課題(C)

<p>【健康課】 令和4年度 電子版親子手帳利用者数1,847名</p> <p>【広報広聴課】 ・広報紙発行部数、47,282部(R4年度平均)、ホームページ閲覧数(子育て・教育21,482件、R4年度)、Twitter登録者数(広報広聴課3,645人、子育て・教育情報1,293人、保育・幼稚園1,938人、R4年度末)、Facebookページフォロワー数(6,656人、R4年度末)、Instagram登録者数(2,220人、R4年度末)、LINE登録者数(21,170人、R4年度末)、note(41人、R4年度末)とピアZZ(18人、R4年度末)、カタログポケット閲覧数(4,858view、R4年度末)</p> <p>※ホームページ閲覧数の大幅な減少は、R3.3のリニューアルに伴ってコンテンツ分類を大幅に見直したことにより、それまでと同じページの閲覧数を集計できなくなったこと、R2年度は年度当初にコロナによる小中学校の臨時休業に伴うオンライン授業をホームページ経由で行ったため、閲覧数が急増したことなどが主な要因と考えられる。 また、R3年度は、コロナ関連情報(園・学校の感染状況や各施設のコロナ対応状況、臨時特別給付金等)が多く閲覧されていたが、4年度は、コロナが落ち着くとともに減少したと考えられる。</p> <p>【子育て支援総合センター】 広報の発行や事業の申込開始等に合わせ、活発に情報発信を行った。特にTwitterを活用し多くの情報発信を行った。</p>	<p>【健康課】 登録するだけでなく、定期的に電子版親子手帳を活用してもらえるような周知が必要。</p> <p>【広報広聴課】 情報発信ツールの増加とともに、事務作業や経費が増加することになる。また、日々新たなツールが開発・淘汰されており、費用、効果、安全性などを検証し、新たなシステムを導入する場合は、併せて廃止を検討する必要がある。</p> <p>【子育て支援総合センター】 情報発信の方法としてどのようなものが適切かについては今後も検討していく必要がある。</p>
--	--

■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)

【健康課】
電子版親子手帳の登録、活用を促すため、各種教室等でPRの機会を増やす。

【広報広聴課】
・広報紙等における子育て世帯を対象にした情報発信において、引き続き情報の伝わりやすさを追求、行動につながる工夫・発信を行う。
・市ホームページにおいて、各担当課がアクセシビリティ・ユーザビリティを意識し、より伝わりやすく使いやすいページを作成できるよう職員研修やグループウェアで情報提供を行う。
・LINEを改修し、関心が高い情報を簡単に閲覧できるようにするほか、市が配信する情報のうち、利用者が欲しい情報のみを受信できるようにする。また、LINEを利用した、より便利で満足度が高まる機能を、関係各課と調整のうえ導入する。

【子育て支援総合センター】
SNS、ホームページを中心とした情報発信を継続する。現在、ひろば事業やみつきランドの休館などの情報を発信しているが、子育て世代からは「子どもが遊べる場所」や「子育て関連講座」のニーズが高いため、今後情報発信の方法を検討し強化していく。

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント

参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	3	3	1			

【評価基準】 A: 高い成果が得られた もしくは見られなかった B: 予定どおりの成果が得られた C: 一定の成果が得られた D: やや不十分な成果にとどまった E: 成果は不十分

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 情報発信・共有するツール数(種類)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>7</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>10</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	7	R4実績値	10	達成状況	○	<p>①-A 子育て関連ページへのアクセス件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>36,778</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>21,482</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	36,778	R4実績値	21,482	達成状況	×
R4目標値	7												
R4実績値	10												
達成状況	○												
R4目標値	36,778												
R4実績値	21,482												
達成状況	×												
<p>①-2 電子版親子手帳利用者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>1,373</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>1,847</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	1,373	R4実績値	1,847	達成状況	○							
R4目標値	1,373												
R4実績値	1,847												
達成状況	○												
<p>①-3 Twitter発信数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>50</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>217</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	50	R4実績値	217	達成状況	○							
R4目標値	50												
R4実績値	217												
達成状況	○												

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	1-4-2	子育て世帯の交流促進
-----	-------	------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	子育て世帯同士の学び・交流支援 子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て支援総合センターを中心とした子育て相談や育児教室の開催、幼稚園・保育所で未就学児や保護者が遊び集える場を提供する子育て広場など、子育て世帯同士の学び・交流の機会を充実し、子育てを支え合う取組や活動を支援します。また、地域と連携し、地域内で子育て世帯が交流できる場を設けます。	子育て支援総合センター 幼保こども園課
■令和4年度取組状況(D)		
<p>【子育て支援総合センター】 新型コロナウイルス感染症の影響から、定員制、事前申込で事業を実施した。感染状況については波がある中、感染対策を行い、安心して利用していただけるよう心掛け、事業を途切れることなく実施することができた。</p> <p>【幼保こども園課】 ・市内保育園・こども園について、新型コロナウイルス感染症が急拡大した時期には、家庭保育の協力依頼をした。 ・例年幼稚園・保育園で実施している園庭開放や、未就園児のつどいについては、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて対応した。 ・公立幼稚園での夏休み期間中のリズム室開放についても、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて対応した。</p>		
■成果(C)	■課題(C)	
<p>【子育て支援総合センター】 感染対策を実施しながら、継続して開催した結果、ひろば事業、みつきらんどともに前年を上回る利用者数となった。</p> <p>【幼保こども園課】 感染拡大防止に配慮しながら、学びや支援の時期を逃さないよう工夫した。園庭開放や未就園児のつどい、リズム室開放について、緊急事態宣言発表時は中止した。感染状況が落ち着いている時期に開催する場合も、人数制限や、予約制にするなど感染予防に配慮し実施した。</p> <p>園庭開放 予定回数68回のうち57回開催 708人 未就園児のつどい 予定回数101回のうち101回開催 3,196人 リズム室開放 予定回数24回のうち24回開催 232人</p>	<p>【子育て支援総合センター】 感染対策の必要性と具体的な実施方法について、今後も検討する必要がある。</p>	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<p>【子育て支援総合センター】 新型コロナウイルス感染症は、令和5年度には5類移行するが、乳幼児や重症化リスクのある妊婦が利用する事業であることから引き続き感染対策が必要であるため、事業の実施方法について引き続き検討する必要がある。</p> <p>【幼保こども園課】 今後も、新型コロナウイルス感染症の取り扱い状況を確認しながら、例年実施している幼稚園、保育園の園庭開放や未就園児のつどいを実施する。また、公立幼稚園での夏休み期間中のリズム室開放を実施する。</p>		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	1	4	1		
<p>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</p>						

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 ひろば事業参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>3,443</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>1,543</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	3,443	R4実績値	1,543	達成状況	×	<p>①-A ひろば事業参加者満足度(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>100</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>87.1</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	100	R4実績値	87.1	達成状況	×
R4目標値	3,443												
R4実績値	1,543												
達成状況	×												
R4目標値	100												
R4実績値	87.1												
達成状況	×												
<p>①-2 市直営拠点(みっきランド・はばたきみっき)利用者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>32,901</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>20,420</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	32,901	R4実績値	20,420	達成状況	×							
R4目標値	32,901												
R4実績値	20,420												
達成状況	×												

■ 令和4年度評価結果

C : 一定の成果が得られた

小分野	1-4-3	地域で子育てを見守る体制の強化
-----	-------	-----------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	地域・行政・周囲のひとによる子育ての見守り強化	子育て支援総合センター健康課
<p>子育て世帯の孤立化を防ぎ、子どもたちが安心して成長できるよう、乳幼児を持つ家庭への訪問による見守り、相談等を実施し、虐待等の未然防止に努めるとともに、家庭、保育機関、学校、地域等が連携して子どもの人権や安全を守る意識を育てます。</p>		
■令和4年度取組状況(D)		
<p>【健康課】新生児・乳児家庭訪問事業により各家庭を訪問し、育児の支援及び家庭の状況確認を行った。新型コロナウイルス感染拡大により訪問を希望されない家庭には、玄関先での確認又は来所での確認や電話での育児状況の聞き取り等を行い、臨機応変に対応した。</p> <p>【子育て支援総合センター】新型コロナウイルス感染症の影響により、特に大声を出すなどの内容が制限される中、開催について検討を行い「在宅児にかかる子育て支援者ネットワーク」において大人を対象とした当該講習会を開催した。</p>		
■成果(C)	■課題(C)	
<p>【健康課】R4年度 新生児・乳児訪問実施率 97.9%</p> <p>【子育て支援総合センター】本来、大人、子ども向けの内容がある講習であるが、令和4年度は大人向けに実施し、理解に繋げることができた。アンケート回答者の100%が「役に立つ」と回答しており、十分な成果を得たと考える。</p>	<p>【健康課】コロナ禍において様々な感染防止対策を講じた上で対応したが、家庭訪問自体を遠慮され、電話での対応やコロナを理由に訪問希望されない方も未だ見受けられた。</p> <p>【子育て支援総合センター】令和4年度に実施した知見を基に、改めて当該講習について開催方法や対象について検討していく必要がある。</p>	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<p>【健康課】感染症に関する不安を基に訪問を拒否される家庭に対して、感染対策を講じながら新生児・乳児家庭訪問を継続的に実施する。また、伴走型相談支援がスタートし、以前から実施している新生児訪問・こんにちは赤ちゃん訪問事業としての面談が支援を行ううえで必要となってくるため、より積極的な訪問勧奨を行っていく。</p> <p>【子育て支援総合センター】開催方法や対象について検討を行い、例えば自治会や民生委員等の幅広い対象者に開催できるよう検討を行う。</p>		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	ファミリー・サポート事業の利用促進	子育て支援総合センター
<p>ファミリー・サポート事業の会員登録を進め、地域における育児の相互援助活動を推進し、地域全体で子どもたちの成長を見守り、子育て世帯の孤立化防止につなげます。</p>		
■令和4年度取組状況(D)		
<p>みっきランドとの連携や、複数所属で共催するボランティア養成講座において、登録者募集の案内を継続して実施した。また、保護者連絡システム「すぐる」の活用や、各保育園、幼稚園へのパンフレットの配架など、新たな取組も行いながら、特に援助会員の登録者を増やすために周知を行った。</p>		
■成果(C)	■課題(C)	
<p>利用件数は順調に推移しており、さらに援助会員が増えたことは一定の成果であると考えられる。</p>	<p>増えたとは言え、依頼会員に対して援助会員(活動者)が不足している状況である。</p>	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<p>出前保育や各講座のタイミングで引き続き啓発を行い、援助会員の増加及び地域での子育て支援体制の強化を図る。</p>		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	2	4			
<p>・子育てを見守る体制が「地域ぐるみ」になっているかが重要である。他主体との協働や見守り自治会の増加等、地域及び各団体とも連携し、取組を進められたい。</p>						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 新生児・乳児訪問の実施率(%)【再掲】</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>99.1</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>97.9</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	99.1	R4実績値	97.9	達成状況	×	<p>①-A 子育て支援サービスの満足度(点)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>56.0</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>50.6</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	56.0	R4実績値	50.6	達成状況	×
R4目標値	99.1												
R4実績値	97.9												
達成状況	×												
R4目標値	56.0												
R4実績値	50.6												
達成状況	×												
<p>①-2 CAP講習会の開催回数(回)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>37</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>23</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	37	R4実績値	23	達成状況	×							
R4目標値	37												
R4実績値	23												
達成状況	×												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>②-1 ファミリー・サポート事業の依頼会員数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>643</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>689</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	643	R4実績値	689	達成状況	○	<p>②-A ファミリー・サポートの利用件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>2,242</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>2,388</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	2,242	R4実績値	2,388	達成状況	○
R4目標値	643												
R4実績値	689												
達成状況	○												
R4目標値	2,242												
R4実績値	2,388												
達成状況	○												
<p>②-1 ファミリー・サポート事業の援助会員数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>186</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>202</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	186	R4実績値	202	達成状況	○							
R4目標値	186												
R4実績値	202												
達成状況	○												

■令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	1-5-1	災害・犯罪等に対する安全性の向上(Ⅰ)
-----	-------	---------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	指定避難所への防災備蓄 災害時における住民の防災力を強化し、自主防災活動を活性化するため、災害用備蓄倉庫を備えていない指定避難所における資機材整備を進めます。	防災安全課
■令和4年度取組状況(D) 災害用備蓄倉庫内の資機材整備については、計画どおりの配備を行った。また、避難所担当職員等を対象とした避難所現地研修に併せて、各指定避難所における既存資機材の保管状況の確認、発電機等の機能点検を実施し、災害発生時に支障なく使用できる環境を維持した。		
■成果(C) 当初予定していたとおり、5箇所の指定避難所に資機材配備を実施し、うち1箇所については、災害用備蓄倉庫も新たに設置した。		■課題(C) 近い将来、高い確率で発生する南海トラフ地震等の大規模災害に備え、資機材の在庫管理及び機能点検は、定期的実施していく必要がある。また、資機材のさらなる充実を図る必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A) 指定避難所への資機材整備をさらに進めるとともに、各避難所の資機材の在庫管理及び機能点検を引き続き実施する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	自主防災会の活動支援・促進 自主防災活動を活性化するため、自主防災会が自らの地域に根ざした防災訓練を実施し、自主防災組織間のつながりや協働体制の強化を促します。学校区単位での防災訓練の実施、企業や市民団体と連携した活動を行うことで地域の防災力を強化します。	防災安全課
■令和4年度取組状況(D) 徐々に自主防災活動も再開し、一部訓練内容に制限は生じたが、コロナ禍前と同程度の訓練数まで回復してきた中で、自主防災会がその地域に応じた防災訓練や防災講座を実施できるよう、訓練内容の助言や職員の講師派遣などの支援を行った。		
■成果(C) 防災訓練等を通じて各自主防災会が地域ごとの災害特性を認識し、その対応策を確認することができた。		■課題(C) ・毎年継続して避難所単位での訓練を実施している自主防災会が限定されており、その割合が低い。複数の自主防災会が連携するためには、避難所単位での訓練を実施する自主防災会を増やす必要がある。 ・これまでの訓練実績や訓練内容により、地域間での災害対応力に差が生じている中、自主防災会単位においても継続した訓練を実施し、格差を埋める必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A) 地域主体で先進的な訓練を実施している自主防災会の事例や、複数の自主防災会が連携して実施している事例の共有や自主防災会向けの研修会の実施などを通じて、地域の災害対応力の底上げを図る。また、地域の防災体制の強化に効果的な「地区防災計画」の策定の支援を行う。		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 災害用備蓄倉庫設置箇所数(箇所)(累計)	①-A 消防署・避難所などの防災施設の満足度(点)
R4目標値	R4目標値
21	55.0
R4実績値	R4実績値
29	51.1
達成状況	達成状況
○	×

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 自主防災会活動推進補助金利用団体数(団体)	②-A 小学校区単位での防災訓練の実施回数(回)
R4目標値	R4目標値
37	5
R4実績値	R4実績値
31	5
達成状況	達成状況
×	○

小分野	1-5-1	災害・犯罪等に対する安全性の向上(Ⅱ)
-----	-------	---------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③	自主防犯活動の支援・促進 犯罪の起こりにくい明るいまちを築いていくため、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識の高揚や地域によるパトロール等の防犯活動など、地域による自主防犯活動を支援します。	防災安全課
■令和4年度取組状況(D)		
地域の自主防犯意識の高揚の一助として、自治会内での防犯カメラの設置に対して補助金を交付するとともに、防犯活動用品の貸出し等を行うなど、自治会の自主防犯活動を支援した。 また、市から市防犯協議会(市・生駒署等で組織)に対して補助金を交付し、防犯協議会の下部組織である「生駒市地域安全推進委員」による自主防犯巡回パトロールの実施、児童の登下校の見守り等の活動を実施した。		
■成果(C)		■課題(C)
防犯カメラの設置を通じて、自治会内における防犯意識の醸成をもたらし、地域の犯罪抑止効果を高めることができた。また、防犯活動用品の貸出し等を行うことにより、地域の自主防犯活動の活性化を支援した。		防犯カメラ設置後の運用を懸念する意見があることから、設置(又は設置希望)自治会に対して、引き続き事前の自治会内での意思統一と周知徹底を求めていくことが必要である。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
令和5年度においても、自治会内での防犯カメラの設置に対する補助金の交付、防犯活動用品の貸出し、市防犯協議会に対する補助金の交付等、自主防犯意識の高揚の一助となるよう引き続き側面から支援する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
④	通学路等安全対策 子どもを交通事故や犯罪から守るため、「生駒市通学路交通安全プログラム」及び国の「登下校防犯プラン」に基づき、関係機関と連携して、各小中学校の通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路等の合同点検を実施し、安全に安心して通学等ができる環境整備を進めます。また、市民の協力による「子ども110番の家」の設置を推進し、子どもが犯罪に巻き込まれないよう地域で子どもを守ります。	教育総務課、幼保こども園課、防災安全課、事業計画課、土木課、管理課、障がい福祉課
■令和4年度取組状況(D)		
6月から7月にかけて小学校などから通学路における危険箇所を抽出し、7月から8月の間に市関係各課、生駒警察署、郡山土木事務所、小学校、幼稚園、保育園、地域住民とともに、小学校通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路等の危険箇所について合同点検を行った。10月に行われた合同会議では、全体で対策内容を協議し、決定した対策内容を小学校・幼稚園・保育園に報告した。令和4年度に対策が決定した対策必要箇所については、予算を伴うことから、基本的に令和5年度以降に対応する予定である。また、『子ども110番の家』のアンケート実施時に旗の交換を希望された方に旗の配布を行うことで『子ども110番の家』の活動継続をサポートし、地域の防犯意識を高めるための一助となるよう努めた。		
■成果(C)		■課題(C)
小学校通学路については、平成24年から点検を行い、対策必要箇所においては、路面標示やグリーンベルト、電柱幕等を設置することで通行車両に注意喚起を行うことができた。また、ストップマークの設置などを行うことで、歩行者に対しても気を付けて歩行するように働きかけることができた。		関係機関等が多岐にわたっているため、全員が一度で確認できるような連絡体制が構築できていない。 対策内容によっては、所管する担当課同士での協議や合同点検の日程調整等に時間を要し、公表するまでに時間がかかる。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
令和5年度に関しても、危険箇所を学校・園等から集約し、合同点検を行う予定である。令和元年度から、過去に交通事故が起きた交差点や、未就学児が日常的に集団で移動する経路等の危険箇所についても点検対象となった。点検対象が増加した中でも、各課との連携を密に行い、危険箇所を減らすことができるよう取り組む。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント ・通学路等安全対策について、関係機関の連携体制強化は急務である。事業を進めるにあたって、必ずしも関係者が一堂に会する必要はないので、ICT機器も活用して、効率的に体制強化を図られたい。
	1	5	1			

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
③-1 防犯カメラ設置自治会数(自治会)(累計) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>24</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>27</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	24	R4実績値	27	達成状況	○	③-A 刑法犯罪認知件数(件) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>457</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>305</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	457	R4実績値	305	達成状況	○
R4目標値	24												
R4実績値	27												
達成状況	○												
R4目標値	457												
R4実績値	305												
達成状況	○												
③-2 防犯活動用品貸出団体数(団体) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>76</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>87</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	76	R4実績値	87	達成状況	○	※③-A 刑法犯罪認知件数(件)は減少目標						
R4目標値	76												
R4実績値	87												
達成状況	○												

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
④-1 通学路の対策必要箇所数(箇所) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>46</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>54</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	46	R4実績値	54	達成状況	×	④-A 交通事故(人身)の発生件数(件) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>225</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>199</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	225	R4実績値	199	達成状況	○
R4目標値	46												
R4実績値	54												
達成状況	×												
R4目標値	225												
R4実績値	199												
達成状況	○												
④-2 「子ども110番の家」設置件数(件) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>1,577</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>929</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	1,577	R4実績値	929	達成状況	×	※④-A 交通事故(人身)の発生件数(件)は減少目標						
R4目標値	1,577												
R4実績値	929												
達成状況	×												

※④-1 通学路の対策必要箇所数(箇所)は減少目標

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

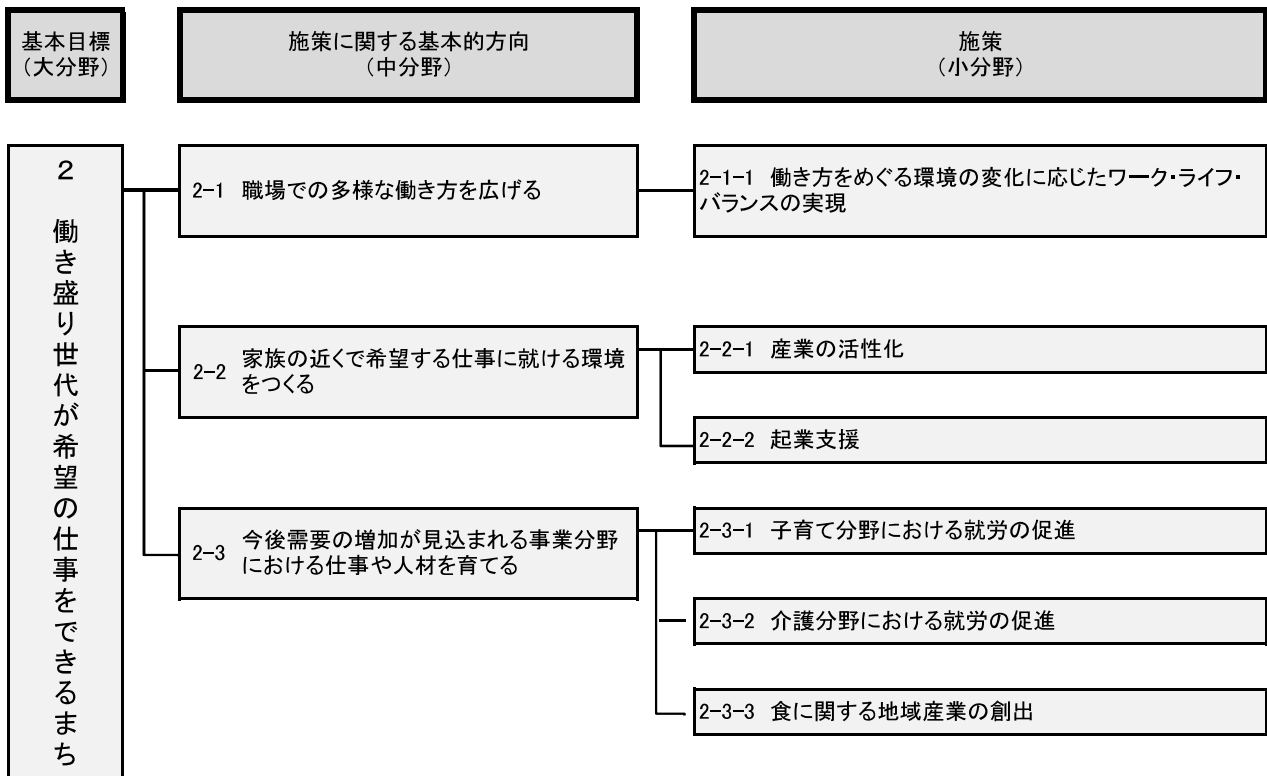
基本目標	2	働き盛り世代が希望の仕事ができるまち
------	---	--------------------

■目指す姿

ワーク・ライフ・バランスに関する取組が進み、働き盛り世代が多様な働き方を選択しているとともに、仕事を自ら起業するするなど家族の近くで希望の仕事ができている。

■数値目標		
目標指標2①	現状値(H28)	目標値(R6)
市内従業者数	27,043人	27,283人
目標指標2②	現状値(H30)	目標値(R6)
法人設立届出数	120件	150件

■施策体系



■数値目標のグラフ

目標指標2① 市内従業者数			
	H30目標値	27,103	〈指標の説明〉 経済センサスにおける、市内事業所での従業者数(公務を除く)。企業の雇用支援だけでなく、人材の掘り起こし、ワーク・ライフ・バランスの向上などに取り組むことにより、令和6年度には27,283人を目指します。
	H30実績値	-	
	達成状況	-	

目標指標2② 法人設立届出数			
	R4目標値	140	〈指標の説明〉 市課税課に提出された法人設立申告書の年間届出件数。様々な起業支援に取り組むことにより、令和6年度には150件を目指します。
	R4実績値	103	
	達成状況	×	

■補助指標

目標指標2① 市内従業者総数(15歳以上)	
	〈指標の説明〉 国勢調査における市内従業者数(15歳以上)。経済センサスの調査項目変更に伴い、市内従業者数が把握できなくなったため、代替指標を設定。

■基本目標実現への効果等

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があったが、展示会や面接会といった企画等が徐々に再開されるなど、様々な取組を進めることができた。

就業意欲がある人の支援として、製造業や医療・福祉業界の人材不足にフォーカスした面接会を4回実施するなど、市内事業者の人手不足と就業意欲がある人のマッチングを支援した。また、より多くの方に参加いただけるよう、適宜開催方法も工夫した。

生駒市テレワーク&インキュベーションセンター「イコモド」は、令和4年度に指定管理者が変更になり、利用形態と利用環境の改善を行い、より利用しやすい環境を整えた。テレワークでの利用件数も高水準で推移しており、コロナ禍に対応したワークスタイルを推進し、各種イベントも開催することで、利用者同士の交流が深めることができた。起業支援においては、市外在住者を対象とした「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」、市内在住者を対象とした「いこま経営塾」を実施した。「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」では、引き続き伴走支援等を行うとともに、令和3年度の卒業生が自身の経験等を受講生に講演する機会を設けるなど、参加者同士のつながりを作る取組を実施した。「いこま経営塾」においては、28名の参加があり、2名の新規創業及び第二創業につながった。また、ライフスタイルの選択肢を増やすセミナーやキャリアセミナーを実施するとともに、農業への興味関心が高まっている状況を受けて、半農半X事業を実施するなど、多様な暮らし方・働き方の実現に向けて事業に取り組んだ。

今後も加速度的に変化する社会環境及び労働環境に対応し、働き盛り世代が多様な働き方を選択できるよう取組を進める。

小分野	2-1-1	働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現(Ⅰ)
-----	-------	------------------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	ワーク・ライフ・バランスの普及啓発 仕事と家庭の両立を促進するため、生駒商工会議所との連携による市民や事業者へのワーク・ライフ・バランスについての意識啓発や、市役所や市内事業所を対象に、育児休業等の取得促進、ワーク・ライフ・バランス先進企業等の取組の紹介など、子育てしながら就業しやすい環境づくりを支援します。	男女共同参画プラザ
■令和4年度取組状況(D)		
ワーク・ライフ・バランスの普及啓発を図るため、多様な働き方や暮らし方を推進し、ライフスタイルの選択肢を増やすセミナー「スタイリングウィーク」やキャリア形成セミナー等を開催した。		
■成果(C)		■課題(C)
新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらワークショップを積極的に取り入れ、キャリアアップや家事分担などのセミナー等を開催した。参加者同士の交流も含め実施することで、効果的に普及啓発を行った。		イクボス専用サイトにて、イクボス及びワーク・ライフ・バランスについて啓発に努めているものの、生駒商工会議所と連携し個別にアプローチするなど、事業者や団体の新規登録を促す必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
多様な働き方や暮らし方を推進し、時短家事講座や親子で楽しく参加できる講座等を企画していくとともに、イクボス宣言を行っている事業者を広く知ってもらうことで、ワーク・ライフ・バランスについて定期的に考えていただけるような機会を増やし、普及啓発に取り組む。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	テレワーク等の推進 ワーク・ライフ・バランスの実現や子育て世帯の女性の就業機会を拡大するとともに、働き盛り世代の市内就労を促進するため、テレワークの導入支援やサテライトオフィスの誘致等テレワークの普及促進に取り組めます。	商工観光課
■令和4年度取組状況(D)		
令和4年度から新しい指定管理者になり、前年度課題としてあがっていた利用形態(営業日等)と環境(通信速度・WEB会議可能な個室等)について、土日祝日も開館して営業日を増やし、また、新しく回線を引くことで通信速度の改善にも取り組んだ。さらに、個室を一部屋準備するなど、より利用しやすい環境を整えることができた。前年度までコロナ禍により開催できなかったイベントについても、1か月に1～2回の頻度で開催しており、事業者や創業を考えている人の支援だけでなく、利用者間の交流の場にもつながっている。		
■成果(C)		■課題(C)
16回のイベント・セミナーを実施し、延べ122名が参加した。令和4年度からSNSやLINE等の運用を積極的に行っており、イコマドの認知度向上に貢献している(総フォロー数 815名)		利用者から冬場の寒さが気になるとの意見があったため、対策を検討したい。市内で副業・創業する人を増やす必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
令和4年度に引き続き、環境の改善を行い利用者の満足度を高めることで、更なる利用拡大につなげていきたい。また、コロナ禍により働き方に変化があり、副業や創業を考える人が増えているため、引き続き定期的にイベントやセミナーを開催し、多様な働き方の促進を図る。		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 多様な働き方に関するセミナー等開催回数(回)(累計)	①-A 男性の平日の育児家事労働時間「全くしない」人の割合(%)
R4目標値 55	R5目標値 1.1
R4実績値 72	R5実績値 9.3
達成状況 ○	達成状況 ×
	①-B 市内のイクボス宣言事業者数(社)(累計)
	R4目標値 65
	R4実績値 57
	達成状況 ×

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 「働く」等をテーマにしたイベント開催回数(回)	②-A イコマドにおけるテレワーク利用件数(件)
R4目標値 135	R4目標値 334
R4実績値 16	R4実績値 2,216
達成状況 ×	達成状況 ○

小分野	2-1-1	働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現(Ⅱ)
-----	-------	------------------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③	女性の活躍推進 男女がそれぞれ、個性や能力を発揮した生きがいのある人生を送れるよう、事業者と連携し、家庭や職場、地域社会等における女性の活躍促進に取り組み、それぞれが自分の能力や個性を輝かせ、自分らしく生きることができる社会を目指します。また、市役所においても、女性管理職の積極的な登用や附属機関等への女性委員の参加促進に取り組みます。	男女共同参画プラザ 人事課
■令和4年度取組状況(D)		
【男女共同参画プラザ】 男女共同参画の大切さを知ってもらうため、男性の家事・育児参加も目的とした親子クッキング講座を開催した。また、女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんで、「女性に対する暴力をなくす運動」期間中にパープルリボンキャンペーンを実施し、セイセイブルのパープル・ライトアップ及び、アンガーマネジメントやこころのセルフケアに関する講座などのイベントを開催するなど、女性の活躍促進につながる取り組みを行った。 【人事課】 特定事業主行動計画の取組み結果を公表するとともに、引き続き計画に基づく取組を推進した。		
■成果(C)	■課題(C)	
【男女共同参画プラザ】パープルリボンキャンペーンについて、子育て支援総合センターと連携し、同時期に実施する児童虐待防止普及啓発のためのオレンジリボンキャンペーンと同時開催することにより効果的な啓発を行った。また、市民活動推進センターの協力によりパープルリボンづくりWSを10回以上開催し、500個以上の啓発用リボンを作成いただき、その啓発を市民に広げることができた。 【人事課】女性の管理職割合 R4年度 27.3%	【男女共同参画プラザ】 コロナ禍の令和2年度以降、DVIに関する相談件数は増加しているが、学校への出前講座などで実施していた若年層向けのDVIに関する啓発が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減少している状況にある。 【人事課】 休暇等を取得しやすい環境整備やキャリアデザインを設計しやすい人事制度の構築を行うことで、女性の管理職志望者を増やしていく必要がある。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
【男女共同参画プラザ】教育委員会と連携し、学校等への出前講座によりデートDV等に関する啓発を実施するとともに、新規事業として市内公立中学校3年生に対し、性別役割分担意識やデートDVなどに関するアンケート調査を実施し、啓発するとともに傾向をとらえる。また、幅広い年齢や状況の方に参加いただけるよう、オンラインも活用するなどの工夫をしながら講座やイベントを実施し、女性活躍に向けた取組を充実させる。市の附属機関等への女性委員の参加の促進については、引き続き積極的な啓発を行う。 【人事課】後期計画で設定した成果指標の達成に向けて、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいく。		

■具体的な取組(P)		■担当課
④	就業意欲がある人の支援 市内企業の安定的な経済活動を支援するとともに、就業意欲のある人を応援し、多様な人材の雇用確保に取り組むため、ハローワーク等と連携して、市内の就職情報を提供できる環境整備や情報の提供・周知を行うこと等により、子育て中の女性やスキルを持った高齢者など多様な人材への就業支援を行います。	商工観光課
■令和4年度取組状況(D)		
前年度に比べ新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いていたため、予定していた4つの面接会を全て実施した。学研生駒テクノエリアの企業(製造業)を中心とした面接会や、医療・福祉業界の人材不足にフォーカスした面接会を実施するなど、市内事業者の人手不足を解消できるように合計4回実施し、平均9社の企業が参加された。4度目の就職面接会では、面接を受けず企業説明だけ聞ける説明会を実施し、参加のハードルを下げた。		
■成果(C)	■課題(C)	
令和4年6月14日開催 合同就職面接会：参加者：33名 採用者：8名 令和4年9月8日開催 合同就職面接会：参加者：36名 採用者：6名 令和4年11月8日開催 合同就職面接会：参加者：57名 採用者：10名 令和5年2月8日開催 合同就職面接会：参加者：16名 採用者：3名 国や県などの支援策についての相談が増え、商工会議所やよろず支援拠点などの各種支援機関などと連携し、サポートする体制を整えた。	参加者の減少だけでなく、それに伴い採用者の人数も減少傾向にある。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
面接会ではさらに説明会などの機会を増やして、参加企業の魅力などをアピールできる場を創出し、参加者と参加企業のニーズに合わせたマッチングができるよう工夫し実施する。また、採用者数を増加させるため、参加者と参加企業の双方のニーズがうまくマッチするように募集をかける必要がある。そのため、より一層ハローワークや商工会議所と連携を強め、ニーズをより正確に把握し実施する。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	3	3			
<p>【評価基準】 A: 高い成果が得られた B: 予定どおりの成果が得られた C: 一定の成果が得られた D: やや不十分な成果にとどまった E: 成果は不十分もしくは見られなかった</p> <p>・住まい方や働き方の概念は急速に変化している。新しい働き方については、まずは、市職員がしっかりと認識する必要がある。 ・男性の育児休業取得など、社会情勢も変化しており、補助金等の制度面も整備されつつある。企業等は制度作りに関する補助金があることで、制度の制定や運用を検討し始めることもあるので、まずは形を作る働きかけも重要である。</p>						

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>③-1 男女共同参画啓発講座等の開催回数(回)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>160</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>136</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	160	R4実績値	136	達成状況	×	<p>③-A 女性活躍推進に関する市民実感度(点)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>59.0</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>48.3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	59.0	R4実績値	48.3	達成状況	×
R4目標値	160												
R4実績値	136												
達成状況	×												
R4目標値	59.0												
R4実績値	48.3												
達成状況	×												
<p>③-2 市の附属機関等の女性委員の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>38.0</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>35.0</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	38.0	R4実績値	35.0	達成状況	×	<p>③-B 市調査による女性の就業の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>47.8</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>45.3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	47.8	R4実績値	45.3	達成状況	×
R4目標値	38.0												
R4実績値	35.0												
達成状況	×												
R4目標値	47.8												
R4実績値	45.3												
達成状況	×												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>④-1 合同就職面接会の参加企業数(社)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>28</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>36</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	28	R4実績値	36	達成状況	○	<p>④-A 合同就職面接会での新規雇用者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>28</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>27</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	28	R4実績値	27	達成状況	×
R4目標値	28												
R4実績値	36												
達成状況	○												
R4目標値	28												
R4実績値	27												
達成状況	×												
<p>④-2 ふるさとハローワークへの相談件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>6,450</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>6,934</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	6,450	R4実績値	6,934	達成状況	○							
R4目標値	6,450												
R4実績値	6,934												
達成状況	○												

■令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	2-2-1	産業の活性化
-----	-------	--------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	企業立地の推進 市内で雇用を生み出し、地域経済循環を活性化させるため、県担当課と連携した工業団地周辺の基盤整備や補助、支援制度の展開など、魅力ある操業環境を整え、企業や研究施設の立地に取り組みます。	商工観光課
■令和4年度取組状況(D)		
前年度までの企業立地促進補助金における認定企業に補助金の支払いを行った。 国際フロンティアメッセに、市内事業者と商工会議所とともに出展した。 メッセナゴヤに、市内事業者と学研都市推進機構と4市町(京田辺市・木津川市・精華町・奈良市)とともに出展した。		
■成果(C)		■課題(C)
国際フロンティアメッセとメッセナゴヤに出展し、市内企業・本市のPRを実施した。 出展した市内事業者に対し他の参加事業者より見積もり依頼があり、取引先の開拓につながった。 テクノエリア会議に出席し、関係各所と情報交換を行った。		学研生駒テクノエリアにおいては、誘致可能な整備された土地に限りがあるため、近隣不動産事業者等と連携し遊休地の把握が必要。 10年先を見据えたさらなる企業誘致のために、引き続き奈良県や庁内関係部署と連携を密にする必要がある。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
奈良県や庁内関係部署と連携し、本市内の誘致エリア拡大を図る取組を行い、本市の立地の優位性を活かした企業誘致に取り組む。また、本市にサテライトオフィスを設置する企業に対し、開発費や運営費の一部補助を行い、市内の雇用につなげる。 奈良県宅地建物取引業協会と連携し、市内に土地を探している事業者に対し不動産情報を提供できる体制を構築する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	既存企業への支援 これまで地域を支えてきた既存企業の安定的な経済活動を維持・拡大するため、生駒商工会議所と連携して、既存企業の経営の安定化や販路の拡大を支援し、安定した雇用確保に取り組みます。	商工観光課
■令和4年度取組状況(D)		
昨年度に引き続き事業継続サポートデスクを開設し、コロナ禍で発生している課題から平常時から抱えている課題まで幅広く相談できる環境を整えた。 合同就職面接会では、学研生駒テクノエリアの企業(製造業)を中心とした面接会や、医療・福祉業界の人材不足にフォーカスした面接会を実施するなど、市内事業者の人手不足を解消できるように合計4回実施し、平均9社の企業が参加された。 生駒市販路開拓補助金の受付を継続し、小規模でも催事や展示会などに出展できるようにサポート体制を整えた。		
■成果(C)		■課題(C)
令和4年6月14日開催 合同就職面接会:参加者:33名 採用者:8名 令和4年9月8日開催 合同就職面接会:参加者:36名 採用者:6名 令和4年11月8日開催 合同就職面接会:参加者:57名 採用者:10名 令和5年2月8日開催 合同就職面接会:参加者:16名 採用者:3名 面接会だけでなく説明会などを開催することによって、参加事業者のアピールできる場が増え、好評だった。事業継続サポートデスクでは、市内事業者の抱えている課題に対応できた。		合同面接会については参加企業、職種及び求職者の幅を広げ、さらなる雇用の確保に努める。 生駒市販路開拓補助金については、認知度を向上させるために、周知方法を検討する。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
面接会ではさらに説明会などの機会を増やして、参加企業の魅力などをアピールできる場を創出し、参加者と参加企業のニーズに合わせたマッチングができるよう工夫し実施する。生駒市販路開拓補助金は、認知が広がっていない状況であるため、認知してもらえる方法を検討し実施したい。また、各事業を行う上では生駒商工会議所など各種支援機関と連携し、情報を共有しながらサポートができる体制を構築する。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント ・起業支援と並行して、廃業を防ぐ支援についても検討されたい。
	1	3	3			

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 展示会での誘致PR件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>6</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	6	R4実績値	3	達成状況	×	<p>①-A 企業立地件数(件)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>26</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>26</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	26	R4実績値	26	達成状況	○
R4目標値	6												
R4実績値	3												
達成状況	×												
R4目標値	26												
R4実績値	26												
達成状況	○												
	<p>①-B 立地企業の新規雇用者数(人)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>64</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>104</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	64	R4実績値	104	達成状況	○						
R4目標値	64												
R4実績値	104												
達成状況	○												

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>②-1 展示会出展支援件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>20</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>12</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	20	R4実績値	12	達成状況	×	<p>②-A 合同就職面接会での新規雇用者数(人)【再掲】</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>28</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>27</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	28	R4実績値	27	達成状況	×
R4目標値	20												
R4実績値	12												
達成状況	×												
R4目標値	28												
R4実績値	27												
達成状況	×												

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	2-2-2	起業支援
-----	-------	------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	起業希望者・起業家間のマッチング及び起業マインドの醸成 起業希望者によるビジネスの立ち上げを支援するため、起業希望者・起業家間のマッチングや事業活動の立ち上げを支援する起業支援者との交流会を開催します。また、早い段階から起業など多様な働き方に対する意識を醸成するため、様々なスキルを有する市民や団体、企業と協働し、子どもたちの生き抜く力の育成や未来を描くことができるセミナー等を開催します。	商工観光課 生涯学習課
■令和4年度取組状況(D)		
【商工観光課】 生駒市外在住者を対象とした創業塾「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」、生駒市内在住者を対象とした創業塾「いこま経営塾」を実施。卒業生(起業家)セミナー登壇、専門家による伴走支援、成果発表会及び交流会を実施し、起業希望者・起業家間のマッチング機会を創出した。 【生涯学習課】 令和4年度は新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、国立奈良工業高等専門学校との連携により「いこまこチャレンジ教室」を計2回開催した。(「6足歩行ロボットを作ろう」及び「手作りモーターを作ろう」)		
■成果(C)	■課題(C)	
【商工観光課】 令和3年度の「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」卒業生がセミナーに登壇し、自身の事業内容や創業までの道のりを、令和4年度の受講生に向けて発信した。令和5年3月に「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」と「いこま経営塾」の合同で実施した成果発表会では、本年度の受講生、過去の卒業生、専門家、生駒商工会議所職員及び地元金融機関の職員に参加していただき、交流を深めることができた。 【生涯学習課】 新型コロナウイルス感染防止対策のもと、人数を限定しての開催であったこともあり、開催2回で合計17人の参加にとどまったが、普段の学校生活では学べない内容でもあり参加者や保護者の満足度も非常に高く、子どもたちが科学への関心を高めるきっかけとなったと考えている。	【商工観光課】 受講者数と伴走支援を受けるためのプレゼン実施者の減少により、伴走支援者も減少した。交流会参加者を増やすため、実施頻度や内容を検討する。 【生涯学習課】 「いこまこチャレンジ教室」は開催できたものの、コロナ禍の中でもあり規模や回数、内容の多彩さについては十分とは言えない状況であった。一方で、近年市民活動団体や企業等が市内で「いこマーケット」や「キッズマネー講座」など「起業」に関する講座等を積極的に開催しており、行政として実施する講座の分野や内容について精査する必要があると考える。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
【商工観光課】 令和5年度は、これまで実施した3事業(「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」,「いこま経営塾」,「いこま営業塾」)を再編・統合し、「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」として実施する。実施にあたって、公募型プロポーザルにて専門性を持った事業者を募り、より多くの市内及び市外の潜在的起業家を発掘し、交流会等を通じて既存事業者とのつながりを拡大し、市内創業の更なる活性化を図る。 【生涯学習課】 奈良工業高等専門学校をはじめ様々な主体との連携のもと「いこまこチャレンジ教室」を開催し、子どもたちの「生き抜く力」や新たなテクノロジー、今後注目される分野に関する学びを提供していく。なお、「起業」を意識させる内容の講座に関しては、民間での同種事業の実施状況も動向しながら実施を検討してまいりたい。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	起業家を育成支援する体制づくり及び情報発信 起業希望者や起業家もない人を支援するため、ベルテラスいこまのイベントや起業支援スペースから芽生えた起業意欲のある方に対し、店舗経営のノウハウの継承・指導やチャレンジする機会を設けるなど包括的な起業家の育成支援を実施します。また、そうした支援を効果的に行うための情報発信や起業支援セミナーの開催などを行います。	商工観光課
■令和4年度取組状況(D)		
創業支援等事業計画に基づく「いこま経営塾」を実施。第一ステップでは、交流会を1回、経営や販路開拓に関する講座を4回と、ワークショップを2回、事業計画プレゼン審査会を1回、全8回の講座を実施し、ビジネス立ち上げに向けての後押しや、起業希望者同士が交流する場の提供を行った。また、第二ステップでは、生駒商工会議所、金融機関、デザイナー等の民間事業者と連携し、起業希望者の事業実現への支援を実施した後に、成果発表会及び交流会を実施した。 生駒商工会議所内に相談サポートセンターを設け、コロナ対策だけでなく、起業希望者の支援も合わせて実施した。		
■成果(C)	■課題(C)	
・いこま経営塾は28名の参加申込があり、伴走支援を実施した受講者2名が新規創業及び第二創業している。 ・相談サポートセンターは90名の方が利用された。	・起業前に実践する機会(チャレンジショップなど)の創出。 ・起業希望者と既存事業者との接点(交流)をいかに増やすかが求められる。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
・令和5年度は、これまで実施した3事業(「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」,「いこま経営塾」,「いこま営業塾」)を再編・統合し、「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」として実施する。実施にあたって、公募型プロポーザルにて専門性を持った事業者を募り、より多くの市内及び市外の潜在的起業家を発掘し、市内創業の更なる活性化を図る。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	4	2			
・起業支援セミナーにおいて、参加したが起業につながらなかった事例を分析し、起業への阻害要因を把握するとともに、対策を検討されたい。						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 交流会の参加者数(人)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>70</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>59</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	70	R4実績値	59	達成状況	×	<p>①-A イコマドにおけるインキュベーション、コワーキング利用件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>1,720</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>2,216</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	1,720	R4実績値	2,216	達成状況	○
R4目標値	70												
R4実績値	59												
達成状況	×												
R4目標値	1,720												
R4実績値	2,216												
達成状況	○												
<p>①-2 いこまっこチャレンジ教室の参加人数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>110</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>17</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	110	R4実績値	17	達成状況	×							
R4目標値	110												
R4実績値	17												
達成状況	×												

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>②-1 起業支援セミナー開催回数(回)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>10</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>10</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	10	R4実績値	10	達成状況	○	<p>②-A 奈良県よろず支援拠点における起業に関する相談件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>94</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>103</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	94	R4実績値	103	達成状況	○
R4目標値	10												
R4実績値	10												
達成状況	○												
R4目標値	94												
R4実績値	103												
達成状況	○												

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	2-3-1	子育て分野における就労の促進
-----	-------	----------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	保育士の確保【再掲】 増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促します。	幼保こども園課
■令和4年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> ・常時勤務を要する職員に対して、給与加算を支出している事業者に対し、市単独の給与改善費補助金を交付し支援した。 ・潜在保育士を発掘するため、「保育園・こども園見学ツアー」(3コース各1回)、「資格をいかそう相談会」(2回)及び職場体験(インターンシップ)(2回)を実施した。 		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> ・給与加算に対する補助金を交付し、処遇改善を行うことで、保育士の確保を図ることができた。 ・「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)の参加者から、フルタイム、パートタイムを併せ、6人を雇用することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、一定の保育士の退職があるため、引き続き処遇改善を進めるとともに、新たな保育士の確保にも努める必要がある。 ・保育士の働き方における負担の多さから敬遠される傾向があるため、業務負担の軽減及びイメージ改善に向けた取組が必要である。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から私立保育所保育士に対する処遇改善補助金を短時間勤務保育士へ支給し、収入の改善を図る。 ・処遇改善に向け、継続勤務いただいた非正規の常勤保育士へ令和6年度から保育士サポート手当を支給できるよう、申請の受付を開始する。 ・保育士業務の軽減につながるよう導入した園支援システムの活用にも努める。 ・「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)を実施する。 		

■総合戦略会議からの令和4年度取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	1	5			

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
①-1「資格をいかそう！相談会」参加者数(人)【再掲】	①-A「資格をいかそう！相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数(人)(累計)【再掲】												
<table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>40</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>26</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	40	R4実績値	26	達成状況	×	<table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>11</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>28</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	11	R4実績値	28	達成状況	○
R4目標値	40												
R4実績値	26												
達成状況	×												
R4目標値	11												
R4実績値	28												
達成状況	○												

■ 令和4年度評価結果

C：一定の成果が得られた

小分野	2-3-2	介護分野における就労の促進
-----	-------	---------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	介護関係資格取得費の支援 市内の介護施設等で働く介護人材等の不足を解消するため、資格の取得等にかかる費用の支援等を行うことで地域人材を活用し、介護人材不足の解消につなげます。	介護保険課
■令和4年度取組状況(D)		
<p>「介護職員初任者研修受講費用の助成事業」について、市内介護事業者にリーフレットを配布して制度の利用促進を進めるとともに、新たな人材を確保するため、市内公共施設等にリーフレットを設置して周知を図り、資格の取得を支援した。さらに、4回目を迎えたケアリンピック生駒では、改めて介護人材確保に繋がる環境整備を見直し、採用の専門家の助言、指導を受け事業を実施した。このほか、令和3年度から、「介護に関する入門的研修」を新たに開催し、外部専門講師を招き、介護専門職に頼らずともできる支援の方法等を紹介するとともに、当該研修の修了者に対して、希望に応じて介護事業所へのマッチングを行うなど、新たな人材の掘り起こし等を含めた事業を実施し、介護人材の不足解消に向けた取組を行った。</p>		
■成果(C)	■課題(C)	
<p>「介護職員初任者研修受講費用の助成事業」に対しては、3人の利用申請があり、助成要件を満たした2人に対して助成金を交付した。</p> <p>また、「介護に関する入門的研修」は43人が受講(47人が応募)されており、マッチング後の就労状況について、当該研修の効果を測定する予定である。</p>	<p>団塊の世代が一斉に後期高齢者になる2025年(令和7年)を迎えるにあたり、介護人材の不足は依然として深刻であり、引き続き、人材の確保と介護予防教室の開催等を通じて、当該後期高齢者の介護度が重度とならないよう努めていく必要がある。</p>	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<p>引き続き、「介護職員初任者研修受講費用の助成事業」と「介護に関する入門的研修」の実施を継続し、介護人材の不足の緩和に努めていく。</p> <p>また、「介護に関する入門的研修」について、今後はコロナの感染状況を見ながら、高い受講効果が期待できる実技演習を取り入れていきたいと考えている。</p>		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	2	4			
<p>・生駒市の年齢別人口から、ここ数年で急速に高齢化が進む。他市に比べて介護人材確保の緊急度は高い。早急に対策が必要である。</p>						

[評価基準] A: 高い成果が得られた B: 予定どおりの成果が得られた C: 一定の成果が得られた D: やや不十分な成果にとどまった E: 成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
①-1 介護関係資格取得を促すための広報回数(回)	①-A 介護関係資格取得支援を受けた新規就業者数(人)(累計)												
<table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>3</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	3	R4実績値	3	達成状況	○	<table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>53</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>34</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	53	R4実績値	34	達成状況	×
R4目標値	3												
R4実績値	3												
達成状況	○												
R4目標値	53												
R4実績値	34												
達成状況	×												

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	2-3-3	食に関する地域産業の創出
-----	-------	--------------

■具体的な取組(P)		■担当課	
①	プロ農業者の確保と育成	農業の活性化と農業者の営農意欲を向上させ、プロ農業者を育成するため、農地の積極的な斡旋、農地情報の提供、営農相談、設備投資支援等による新規就農者や既存農業者への支援を拡充することにより、地域農業の振興に努めます。また、農業に関するノウハウを共有するため、民間事業者や大学等と協議を進めます。	農業委員会事務局 農林課
■令和4年度取組状況(D)			
生活様式の多様化に伴い農業への関心が高まってきていることから、県と共同で開催している「なら就農フェア」での新規就農相談への対応、「農のマッチングフェア」等への参加のほか、市内の農地見学会の実施を積極的に行った。また、認定新規就農者2名への農業次世代人材投資資金の交付や、青年等就農計画変更の認定支援、燃料価格高騰対策として影響を受けた施設園芸農家への支援金の創出等を行い、新規就農者及び既存農業者への支援に取り組んだ。また、新たな担い手確保、遊休農地の解消を図るため、半農半X支援事業を開始した。			
■成果(C)		■課題(C)	
令和4年度については、青年新規就農者はいなかったが新規就農者は1名いた。		遊休農地の増加等を防ぐため、引き続き新規就農を促すとともに、既存農業者の効率的な農業経営を支援することにより、農業への定着を図る必要がある。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)			
人・農地プランに代わる地域計画策定に向けた情報収集、集落座談会等により、貸出希望農地の農地中間管理事業への登録等を推進し、担い手農業者への農地の集積を図り、効率的な農業経営を推進するとともに、農業次世代人材投資資金(経営開始型)や認定新規就農者用の設備投資資金の活用により、新規就農者の増加を図る。また、新たに取組を開始した半農半X支援事業において、事業参加者が継続的に農を生活に取り入れられるよう、支援策を模索しながら事業の推進を図る。			

■具体的な取組(P)		■担当課	
②	農作物の販売支援	農業者の収入を増やし、営農意欲を向上させるため、小高い農業の推進や地場野菜等の流通促進、学校給食用食材の利用拡大、農作物のブランド化、6次産業化の促進などに取り組み、プロ農業者だけでなく小高い農業者の販売促進につなげます。	農林課
■令和4年度取組状況(D)			
自治会への移動販売が1自治会增加し、地場野菜の魅力を発信するとともに、他の地域コミュニティ事業と相互連携を図り、地域コミュニティ形成・発展に取り組んだ。また、学校給食用食材の出荷者に対する価格補助による地産地消の推進や、ふるさと納税への農産物の出品を促し、生駒の農産物のブランド化を図った。			
■成果(C)		■課題(C)	
移動販売1自治会增加。		販売機会の増加や生駒の農産物のブランド化を一層推進することにより、小高い農業及びプロ農業者の収益性向上を図る必要がある。販売農家の増加が見込めないことから今後、移動販売箇所を増加は難しい。	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)			
小高い農業者の販売促進につながる農業者らによる朝市開催を支援するとともに、他のイベント等とあわせて青空市場や移動販売を開催することで、幅広い層への地場野菜等のPRと販売促進を図る。また、生駒の農業者や農産物の情報発信や、加工品販売等の促進などに取り組む。			

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	4	2			
<p>・新規就農の大きなハードルは農機具の購入費用である。JA等と連携することで農機具の共同利用等を検討できるのではないかな。</p> <p>・他市では、定年後の就農を見据えた取組として、55歳からの農業講座も実施している。ターゲット等を明確にして戦略的に取り組む必要がある。</p>						

【評価基準】 A: 高い成果が得られた B: 予定どおりの成果が得られた C: 一定の成果が得られた D: やや不十分な成果にとどまった E: 成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 農地見学会参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>8</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>2</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	8	R4実績値	2	達成状況	×	<p>①-A 青年新規就農者数(人)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>17</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>19</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	17	R4実績値	19	達成状況	○
R4目標値	8												
R4実績値	2												
達成状況	×												
R4目標値	17												
R4実績値	19												
達成状況	○												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>②-1 移動販売自治会数(件)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>11</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>11</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	11	R4実績値	11	達成状況	○	<p>②-A 地場野菜等を地元飲食店が使用、事業者が販売している件数(件)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>17</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>17</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	17	R4実績値	17	達成状況	○
R4目標値	11												
R4実績値	11												
達成状況	○												
R4目標値	17												
R4実績値	17												
達成状況	○												

■令和4年度評価結果
<p>B : 予定どおりの成果が得られた</p>

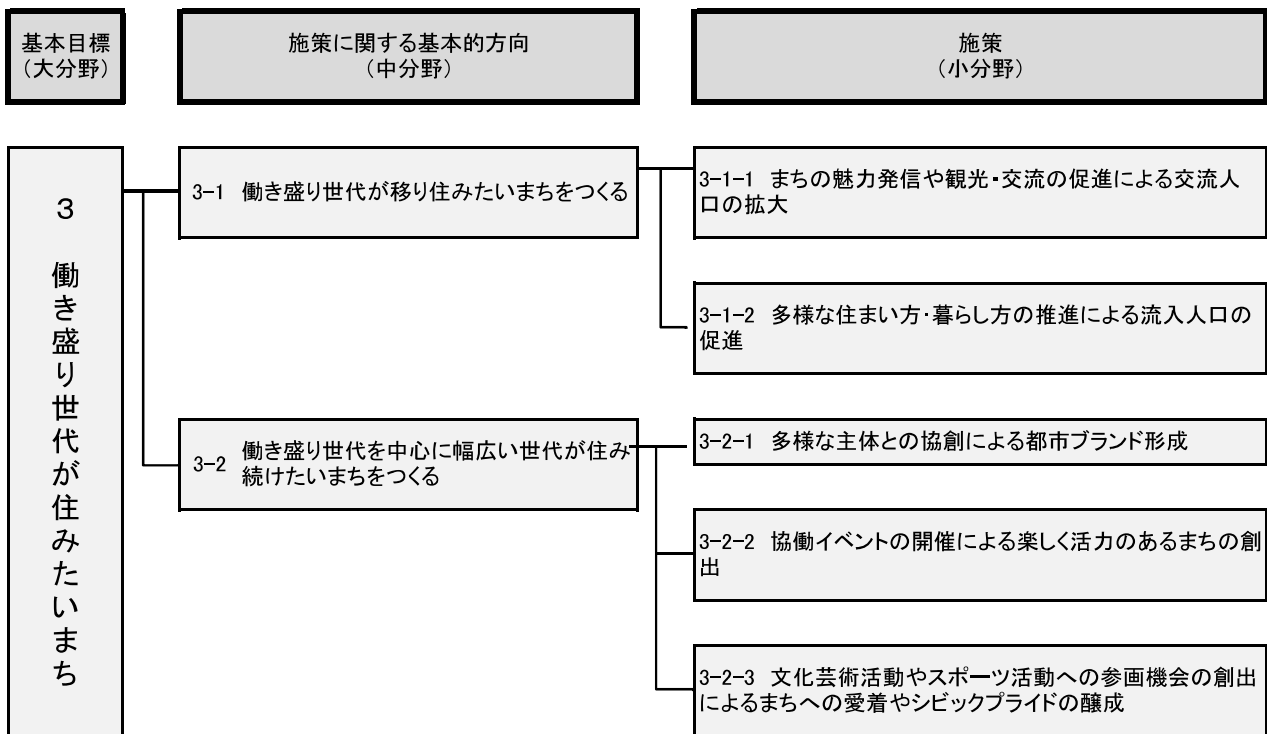
基本目標	3	働き盛り世代が住みたいまち
------	---	---------------

■目指す姿

多様な住まい方・暮らし方の推進により、働き盛り世代にとって魅力的なまちとして認知され、都市ブランドの形成と交流人口が拡大しているとともに、その魅力に惹かれて市外から働き盛り世代が新たに市に流入してきている。また、市内においても働き盛り世代を中心にシビックプライドが醸成され、定住促進が進んでいる。

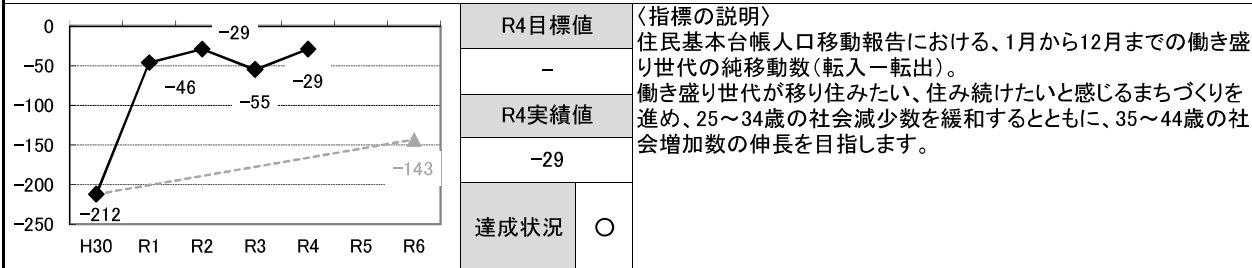
■数値目標		
目標指標3①	現状値(H30)	目標値(R6)
働き盛り世代(25～34歳)の純移動数(転入－転出)	-212人	-143人
働き盛り世代(35～44歳)の純移動数(転入－転出)	+50人	+160人
目標指標3②	現状値(R1)	目標値(R6)
働き盛り世代の定住意向「ずっと住みたい」の割合(%)	45.5%	50.5%

■施策体系

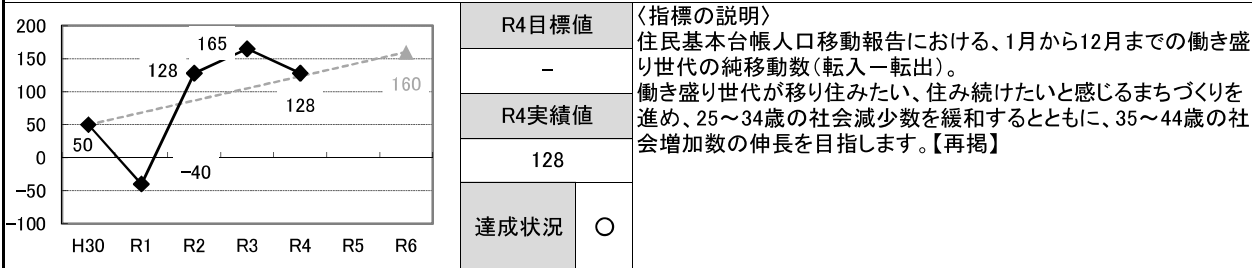


■数値目標のグラフ

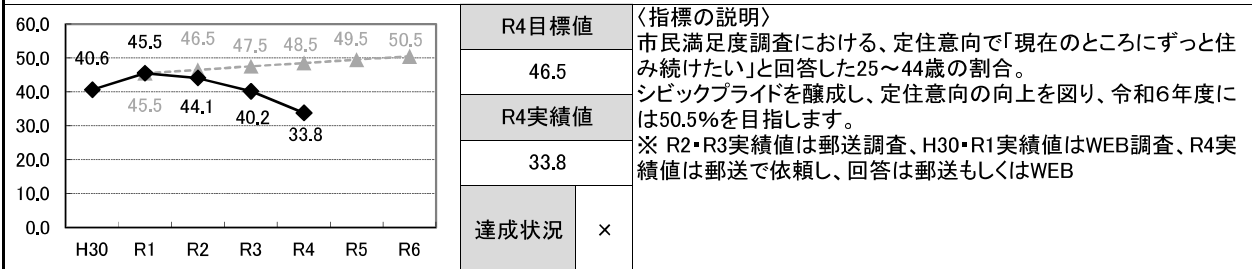
目標指標3①-1 働き盛り世代(25～34歳)の純移動数(転入－転出)(人)



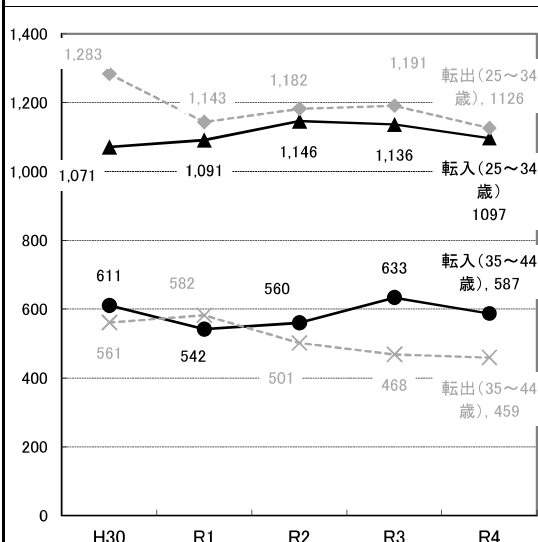
目標指標3①-2 働き盛り世代(35～44歳)の純移動数(転入－転出)(人)



目標指標3② 働き盛り世代の定住意向「ずっと住み続けたい」の割合(%)



(参考)働き盛り世代の転入転出数(人)



■基本目標実現への効果等

市内外へのまちの魅力発信について、ポータルサイト「good cycle ikoma」を核に、市内で多様な暮らし方・住まい方をしている人のインタビュー記事や、複合型コミュニティの体験レポート等を発信し、生駒市で暮らすことの魅力をPRしたことで、サイト閲覧数やSNSのフォロワー数が順調に増加した。また、ポータルサイトが自治体広報DXアワード優秀賞を獲得するなど、外部からも大きな評価を得ている。

観光においては、体験型のコンテンツを充実させ、市内外の人々が市内で様々な経験をすることで、市内への理解を促進するきっかけを提供している。

多様な住まい方・暮らし方の発信では、空き家の利活用に向けて、所有者と希望者双方への支援を実施し、リノベーションや住宅の選び方などの情報をgood cycle ikomaで発信するなど、情報発信を継続している。

指標①「働き盛り世代の純移動数」については、特に35歳～44歳の転入増加、転出減少が顕著で目標を大幅に上回った一方で、25歳～34歳は、転入が微減、転出が増えている。

また、②「働き盛り世代の定住意向「ずっと住み続けたい」の割合」は減少傾向が続いている。「当分の間は住みけたい」「市内のどこか他のところに移りたい」を含めた市内への定住意向は83.1%であるが、「ずっと住み続けたい」の割合が低下すると、転出増加につながる懸念があるため、「住む」だけではなく「働く」「楽しむ」といった事業を増やし、まちの魅力向上に取り組む必要がある。

小分野	3-1-1	まちの魅力発信や観光・交流の促進による交流人口の拡大
-----	-------	----------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	いこまの魅力創造事業 市のイメージを向上させ、市外に住む働き盛り世代からの興味関心を喚起するため、シティプロモーションサイト「good cycle ikoma」や市公式フェイスブックの運用、各種広告などにより、多様な暮らし方や多様な住まい方が可能なまちであることや市の魅力を市民協働で発信します。また、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」をはじめとした各種事業により、将来住民になる可能性のある方々に対して生駒暮らしの魅力を伝えます。	広報広聴課 商工観光課
■令和4年度取組状況(D)		
ポータルサイト「good cycle ikoma」を核に、公式SNSの運用やウェブ・SNS広告等を通じ、行政情報や地域情報を発信した。ポータルサイトは、市内で多様な暮らし方・住まい方をする人のインタビュー記事5本や複合型コミュニティづくりの体験レポート2本を含み、新規で100件の記事を更新。サイトを紹介するタブロイド紙を発行し、市内外約240カ所で配布した。また、市外の働き盛り世代2,000人を対象にしたサイトのイメージ調査を実施し、10点満点中7以上をつけた人が55%という結果になった。		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイト閲覧数…月平均15,900PV(前年度比約15%増加) ポータルサイトが自治体広報DXアワードで優秀賞を受賞 公式Facebookのページフォロワー数…6,656件(前年度比380件増加) 公式Instagramのフォロワー数…2,210件(前年度比670件増加) 		生駒に興味・関心を持ち、ポータルサイトやSNSを検索する層を増加させる方法と、SNSのアルゴリズムの変更に対応してリーチ数を保つことが情報発信の課題である。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
ポータルサイト「good cycle ikoma」の改修、SNSとの連携、SEOを意識し、多様なライフスタイルや地域の活動を中心にした情報発信を引き続き行う。地域の魅力や生駒での暮らしやすさを伝え、本市に興味や関心をもってもらい、愛着と共感を広げ、生駒に関わるきっかけを提供していく。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	観光・交流の促進 観光関連事業者等と連携して、民間のノウハウや知識を活用しながら、観光客受け入れのために必要なサインの整備や観光客向け体験型コンテンツの企画を行うとともに、SNS等を活用して国内外に観光情報を発信して魅力のPR等に努めます。事業者等がこれらの活動を主体的に取り組むことができるよう支援することにより、市内を訪れる観光客数や交流人口の増加を目指します。	観光振興室
■令和4年度取組状況(D)		
生駒市観光協会、東大阪市や鉄道会社等、多様な団体及び観光関連事業者と連携して、地元の食材や生駒山を活用した旅行商品を開発。モニターツアーを実施し、商品化に向けた磨き上げを実施した上で、旅行会社と販売に向けて取組を継続している。また、市民から希望者を募り、参加者がセミナーで地域の魅力の伝え方を学んだ後、ワークショップを通じて体験コンテンツを造り上げる市民参加型の旅行商品造成プログラムを実施し、事業者等の協議や専門家の助言を受けながら、市民が主体となって体験コンテンツを開発し、その一部を販売することができた。近畿日本鉄道と連携したSNSを活用したフォトコンテストを行う「生駒レトロ」の取組は、新たに東大阪市も参加して実施した。		
■成果(C)		■課題(C)
延べ15人の市民とともに、3回のセミナーと3回のワークショップを経て生駒山の観光資源を活用した4つの体験コンテンツを新たに開発し、その中の一つを販売開始することができた。また、これらの取組により参加者の80%が生駒の観光への意識の変容があった。これまで達成してきた体験コンテンツの売行きは堅調で、前年度比約162%となる286人に販売することができた。		令和7年度の大阪・関西万博を見据え、観光需要増加の好機を活かす段階的な準備が必要。また、市民実感が低いことから、市民や事業者等、多様な主体に興味を持ってもらえるような観光施策や関わってもらえる仕組みづくりが必要。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
令和5年度は、生駒山が近鉄観光エリアキャンペーンの対象となることから、観光需要増加の好機を活かすため、生駒山のブランド化に繋がる取組をさらに推進するとともに、これまで開発してきた体験プログラム等を活用し、市内の周遊滞在や消費を促すようなプロモーションを実施する。また、市外からの観光客だけではなく、多くの市内事業者や市民に参加してもらえるような取組とすることで生駒の観光資源等の魅力を市民も実感できるような取組として構築する。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	3	3			
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、マイクロツーリズムが普及した。また、ブラレール広場等、生駒市は市民のイベントも集客力がある。人を生駒市に呼ぶという観点から考えると、市民活動も観光と呼ぶことができるのではないかと。いわゆる観光資源以外も視野に入れて検討されたい。 ・生駒市という名称にはブランド力がある。生駒山や夜景という観光資源も引き続き活用し、観光振興に取り組まれた。 						

【評価基準】 A: 高い成果が得られた B: 予定どおりの成果が得られた C: 一定の成果が得られた D: やや不十分な成果にとどまった E: 成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 生駒の魅力に関する情報接触件数(件)(累計)	①-A 市公式フェイスブックの「ページいいね」件数(件)
R4目標値	R4目標値
170,000	7,100
R4実績値	R4実績値
589,785	5,905
達成状況 ○	達成状況 ×
	①-B IKOMA SUN FESTAに会場して生駒市の印象が良かった人の割合(%)
	R4目標値
	75
	R4実績値
	-
	達成状況 -

※R2以降IKOMA SUN FESTAは実施していません。

■ KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 観光関連セミナー等参加者数(人)	②-A 観光地の来訪者数(千人)
R4目標値	R4目標値
75	1,567
R4実績値	R4実績値
38	1,002
達成状況 ×	達成状況 ×

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	3-1-2	多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進
-----	-------	---------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課	
①	空き家の流通促進と住宅のリノベーションの推進	多様な住まい方・暮らし方への受容と理解を図りながら、空き家の流通を促進し、良好な中古住宅の活用を推進するため、空き家流通施策やリノベーション事例の発信を広く効果的に展開します。また、事業者と一体となって、近居・住み替えニーズの掘り起こしと魅力的な賃貸住宅の供給策を検討するなど、本市にふさわしい土地利用のあり方を考えます。	住宅政策室 都市計画課
■令和4年度取組状況(D)			
<p>空き家所有者と活用希望者双方への支援と並行して取り組むとともに、支援強化に向け、空き家所有者等への意向調査も行った。</p> <p>●所有者向け支援：個別相談会で空き家に関する正しい知識の提供や悩みに応じた適切な助言を行い、売却・賃貸を希望する所有者にはプラットフォームを紹介した。</p> <p>●希望者向け支援：生駒市へ移住を考える方の疑問に市職員がオンラインで答える「移住相談窓口」の創設、グッドサイクルいこまで中古住宅のリノベーション事例や住まいの選び方を紹介した記事の発信(2件)、建築士が物件見学に同行し住まいの選び方を解説する「住まい選び相談」の創設、貸したい人と借りたい人の想いをつなぐ「恋文不動産」、空き家でDIY改修を体験するイベント(1回)等を行った。</p>			
■成果(C)		■課題(C)	
<ul style="list-style-type: none"> 平成28年時点の市内空き家1444棟の内、5年間で約4割が空き家状態を解消 空き家個別相談会参加14組(6回開催) プラットフォーム取扱16件、成約16件 移住相談利用12組、住まい選び支援利用3組 イベント参加47人 		<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度以降、新たに発生した空き家の把握 空き家所有者と活用したい人をつなぐ仕組みの再構築 	

■具体的な取組(P)		■担当課	
②	移住支援金の交付	県が中心となり国の認定を受けた地域再生計画に基づく施策として、人口の東京一極集中を是正し、地方へのUIJターンを促すため、東京23区在住者又は23区への通勤者が本市に移住し、県内の対象法人に就業、又は起業した場合、移住支援金を交付します。	商工観光課
■令和4年度取組状況(D)			
<p>奈良県にて対象要件が緩和され、引き続きテレワークなどのコロナ禍の生活様式に合わせた対象者が追加されている。また、その追加された対象要件に当てはまる申請者が本年度より支援金受給の対象者となった。</p>			
■成果(C)		■課題(C)	
<p>令和元年から本事業が始まり、元年と2年は移住実績はなく、令和3年度に引き続き令和4年度も1件の実績となった。移住にあたって、本市に安心して移住いただけるよう申請手続きだけでなく移住や創業に関する様々な情報提供を行い支援することができた。</p>		<p>本事業は、市が受付の窓口となっているが、1人の移住者に対し国・奈良県・市がそれぞれ負担する予算方式となっている。奈良県で、当該年度の移住支援金の総予算が決まるため、本市に移住希望者が複数あっても、奈良県の予算枠が埋まってしまうと当該年度の移住支援金の支給ができず、予算の都合で受付できない申請が1件発生した。</p>	

■具体的な取組(P)		■担当課	
③	既存住宅の診断や改修に対する支援による流通促進	耐震改修やリフォーム、バリアフリー化に関する相談窓口等を設置するとともに、耐震化に対する支援を行うことにより、既存住宅の流通を促進します。	住宅政策室 建築課
■令和4年度取組状況(D)			
<p>【住宅政策室】 住宅相談：耐震やリフォーム等について、月1回4枠の相談体制を整えた。</p> <p>【建築課】 市内の既存住宅における耐震化率向上を図るため、耐震診断及び耐震改修、解体工事の補助を実施した。広報紙や市ホームページ等で周知を行うとともに、耐震性が低い地域において啓発に関するポスティングを行い、情報提供を促進した。</p>			
■成果(C)		■課題(C)	
<p>【住宅政策室】 住宅相談：8回開催、参加17組</p> <p>【建築課】 令和4年度補助金交付件数 耐震診断：30件 耐震改修等：31件</p>		<p>【建築課】 耐震化に対する支援として補助制度の周知を広めるよう取組を行っているが、引き続き啓発が必要である。</p>	

■総合戦略会議からの令和4年度取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	5	1			

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 空き家流通プラットフォーム取扱件数(件)(累計)	①-A 流通促進奨励金及びプラットフォーム成約による市外から空き家への転入世帯数(件)(累計)
R4目標値	R4目標値
145	34
R4実績値	R4実績値
119	48
達成状況	達成状況
×	○

■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)
<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度以降に発生した空き家を把握するため、空き家実態調査の実施 空き家を活用したい人の想いを見える化する仕組みの検討

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 マッチングサイトに新たに掲載された求人数(件)(累計)	②-A 移住者数(人)(累計)
R4目標値	R4目標値
8	4
R4実績値	R4実績値
6	2
達成状況	達成状況
×	×

■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)
奈良県や県下の市町村とこれまで以上に連携し支給金額などの見直し等を行うことで、支援金を受けることのできる申請者を増やしていきたい。

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
③-1 既存住宅耐震診断補助事業利用件数(件)(累計)	③-A 改修補助等により耐震化した住宅の件数(件)(累計)
R4目標値	R4目標値
720	371
R4実績値	R4実績値
719	397
達成状況	達成状況
×	○

■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)
【建築課】耐震セミナーの開催や耐震性の低いエリアに啓発チラシのポスティング等を行い、補助金制度の周知を継続的に図る。

■令和4年度評価結果
B：予定どおりの成果が得られた

小分野	3-2-1	多様な主体との協創による都市ブランド形成(Ⅰ)
-----	-------	-------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	<p>いこまの魅力創造事業</p> <p>市民PRチーム「いこまち宣伝部」やシティプロモーションサイト「good cycle ikoma」の運用、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」の実施をはじめ、庁内外の連携によって生駒の人・モノ・コトと出会い、このまちに暮らす喜びを感じられる場、多様な人と人の関係性が育まれる場をつくります。また、新しい暮らし方をする人や能動的にまちで活動する人の活動のサポートや、継続的な発信によって、一過性のプロモーションではなく、生駒らしい都市イメージを形成し、暮らし続けたいと思う人の増加を目指します。</p>	<p>広報広聴課 商工観光課 市民活動推進センター</p>
■令和4年度取組状況(D)		
<p>【広報広聴課】 いこまち宣伝部7・8期生の運営により、地域の魅力を発掘・発信する人を育成した。・職員の広報・デザイン力を強化することを目的に、事業相談会(13事業)と研修会(4回)を実施した。 ・ライフスタイルの変化に対応した施策を担当する課と連携して「スタイリング・ウィーク」を実施した。 ・ポータルサイトやSNS「グッドサイクルいこま」で紹介した人や、多様な働き方・暮らし方を実践する人をゲストスピーカーに招き、多様な関係性を育む場として、まちの交流会「つどい」を6回実施した。</p> <p>【市民活動推進センター】 同センターを拠点に、様々な学びと実践を繋ぐ仕組み「市民活動創発プラットフォーム(BASE生駒)」を構築し、様々な分野の講座(座学・体験)を実施、人と人とのつながりと仲間を増やす交流会等を開催し、若者や働き盛り世代を中心にこれからの地域で活躍する人の発掘と育成に努め、次年度に向けての新たな地域活動の創出できるように取り組んだ。 ・講座開催数 18回 参加人数 187人 ・キックオフ会、交流会 2回 参加人数96人</p>		
■成果(C)	■課題(C)	
<p>【広報広聴課】 いこまち宣伝部7・8期生の運営…25名参加 ・いこまち宣伝部がグッドデザイン賞を受賞 ・庁内向け事業相談会、研修会の参加数…のべ102人 ・スタイリング・ウィークで連携した所属…8所属、180人参加 ・まちの交流会「つどい」参加者数…125人</p> <p>【市民活動推進センター】 新たな人の発掘から市民活動を生み出す仕組みと場づくり等の拠点が出来上がったことは大きな成果である。今後地域で何か活動したい市民が、気軽にこの場を活用し、多くの市民活動(テーマ型)が生まれるように取り組んでいく。また、キックオフ会、各種講座を開催したことにより、新たな市民活動が創出され、伴走支援することができた。</p>	<p>【広報広聴課】 ・「つどい」と「スタイリング・ウィーク」の実施目的や狙いの違いが伝わりにくい。 ・市民等が何か行動を起こしてみたいとき、地域で関わりやすい場や機会が少ない。</p> <p>【市民活動推進センター】 ・まちづくりに関わる若い世代や働き盛り世代へのアプローチ及びとり込みが弱い。今後はこのような世代をターゲットに、新たな人材の発掘と育成に努めたい。また、この仕組みや拠点を多くの市民に知ってもらうよう周知等することが必要である。</p>	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<p>【広報広聴課】 いこまち宣伝部の運営、まちの交流会「つどい」を引き続き実施する。令和5年度は、スタイリング・ウィークを廃止し、これまで当該事業で連携していた課と共催で「つどい」を開き、特に働き盛り世代を中心にした関係性の構築に取り組む。 ・「まちを知る」だけでなく、みんなで一緒にまちの魅力を作り上げていくことを体感してもらうために、マルシェを切り口にした連続講座・実践を新しく企画運営する。</p> <p>【市民活動推進センター】 ・若い世代や働き盛り世代をターゲットに、様々な分野の講座の実施と交流会の開催 ・庁内各課が行う「交流」や「学び」といった人材発掘、事業との連携 ・これまで発掘した人材をベースに新たな事業化への伴走支援 ・ホームページ等を通じての「BASE生駒」の周知強化</p>		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	<p>地域特性に応じたまちづくり(ミライ会議)</p> <p>暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来課題を知り、永く楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、実現を目指すためのきっかけの場(ミライ会議)をつくり、地域住民による地域主体のまちづくりを目指します。</p>	<p>都市計画課 住宅政策室 地域コミュニティ推進課</p>
■令和4年度取組状況(D)		
<p>【都市計画課・住宅政策室】 あすか野地区において、住民主体で進める取組の企画や広報等の伴走支援を行った。(萩の台地区はコロナ禍の影響で開催できず)</p> <p>【地域コミュニティ推進課】 次年度に複合型コミュニティづくりを計画している6自治会を対象に、それぞれの地域でワークショップを開催するほか、市民自治協議会を計画している2小学校区を対象に、地域の様々な団体を集め、設立へ向けての座談会をそれぞれの地域で開催した。</p>		
■成果(C)	■課題(C)	
<p>【都市計画課・住宅政策室】 住民主体であすか野小学校の放課後教室を33回開催するなど、地域主体のまちづくりが進んだ。</p> <p>【地域コミュニティ推進課】 令和4年度に1自治会が新たに複合型コミュニティづくりを始めるほか、次年度は4自治会が同コミュニティづくりを実施する成果に繋がった。また、市民自治協議会では「防災」「福祉」「子育て」を切り口に様々な団体が主体となった地域の支え合い、助け合い等といったまちづくりについての意識の向上に繋がった</p>	<p>【都市計画課・住宅政策室】 同時により多くの地域での取組を進める方法の検討が必要。</p> <p>【地域コミュニティ推進課】 ワークショップや座談会の各地域での開催は、より幅広い世代の参加者を狙っていたものであるが、比較的年齢層の高い世代や、地域で既に活躍されている方が多くおられ、若い世代の参加者が少なかったことから、今後この世代へのアプローチと巻き込み方を再度検討する必要がある。</p>	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
<p>【都市計画課・住宅政策室】 過年度に実施した地区において、伴走支援を継続する。</p> <p>【地域コミュニティ推進課】 複合型コミュニティづくりに取り組む自治会は今後も増えることが予想され、それに伴い事業計画のワークショップも増えることから、今年度も若い世代へのアプローチを意識しつつ、引き続き幅広い住民の参加を得るため、現地でのワークショップ開催やニーズ把握のアンケート実施等を通じて市民自治協議会も併せて住民主体によるまちづくりを進めていく。</p>		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 地域魅力の創造・発信者育成事業参加者数(人)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>131</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>184</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	131	R4実績値	184	達成状況	○	<p>①-A 生駒市に住んでいることに誇りを持っている人の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R5目標値</td><td>64.0</td></tr> <tr><td>R5実績値</td><td>56.3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R5目標値	64.0	R5実績値	56.3	達成状況	×
R4目標値	131												
R4実績値	184												
達成状況	○												
R5目標値	64.0												
R5実績値	56.3												
達成状況	×												
<p>①-2 都市ブランド構築のための庁内事業連携・支援件数(件)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>18</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>22</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	18	R4実績値	22	達成状況	○	<p>①-B 推奨意欲を持つ人の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R5目標値</td><td>67.5</td></tr> <tr><td>R5実績値</td><td>60.3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R5目標値	67.5	R5実績値	60.3	達成状況	×
R4目標値	18												
R4実績値	22												
達成状況	○												
R5目標値	67.5												
R5実績値	60.3												
達成状況	×												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>②-1 ミライ会議の開催地域数(地域)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>5</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>14</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	5	R4実績値	14	達成状況	○	<p>②-A ミライ会議をきっかけに始動した取組数(件)(累計)</p> <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>12</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>8</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	12	R4実績値	8	達成状況	×
R4目標値	5												
R4実績値	14												
達成状況	○												
R4目標値	12												
R4実績値	8												
達成状況	×												

小分野	3-2-1	多様な主体との協創による都市ブランド形成(Ⅱ)
-----	-------	-------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課	
③	ICTや民間活力を活かしたまちづくり	人口構造の変化に伴う多様な地域課題に対応するため、Society5.0の実現に向けてICTやデータの活用を進めるとともに、民間のノウハウや知識の導入をはじめ、地域課題解決ワークショップを開催するなど、多様な主体との協創連携を進めます。そうすることで、公共サービスの価値を高め、まちの魅力向上を目指します。	デジタル推進課 SDGs推進課
■令和4年度取組状況(D)			
<p>【SDGs推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年3月の協創対話窓口設置後、ガイドラインの作成や、民間事業者等との連携事業実施に注力してきた。なかでも令和4年度は、公民連携のワンストップ窓口である「協創対話窓口」の提案数が22件、事業化件数が8件と大幅に増加した。連携事業についても地域課題を解決するものから、公共サービスの利便性向上につながるものまで幅広く実施した。 <p>【デジタル推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域課題をデータから捉える力を備えるため、地域経済分析システム(RESAS)の活用に向けた職員研修を実施。 オープンデータ公開に向けた各課支援を実施し、新たなデータを20件登録した。あわせて、オープンデータをはじめとする行政保有データの利活用に向け、官民共創プロジェクトに参画。民間事業者や他の参加自治体と議論を行った。 			
■成果(C)		■課題(C)	
<p>【SDGs推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生駒市協創対話窓口への提案件数22件のうち8件が事業化。 協創ワークショップは、大阪のNTT西日本内にあるイノベーション施設「QUINTBRIDGE」で実施し、44名が参加した。 <p>【デジタル推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> データ利活用(RESAS)研修を行い、19名の職員が参加した。 民間事業者との議論により、オープンデータのニーズとシーズとの間に大きな乖離があることが判明。現状では、事業者での積極的な活用は限定的なものとなることが分かった。 		<p>【SDGs推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部署が公民連携の意義を理解し積極的に推進する意識を高めるとともに、事業者から積極的かつ効果的な提案が得られるよう、本市の行政課題・ニーズに係る積極的な情報発信等を継続する推進体制を構築する必要がある。 <p>【デジタル推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> データ利活用に向けての研修を継続し、職員のスキル向上に努める必要がある。 オープンデータについては、より多くのデータ公開を図りつつも、特に事業者側からの需要があるデータ公開を模索する必要がある。 	
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)			
<p>【SDGs推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度には、公民連携に係る基本的な考え方、各部署が具体的に取り組むためのルール及びアクションプランを明確化するため、公民連携基本指針を策定する。さらに、協創対話レポートの発刊や協創ワークショップの開催に継続的に取り組み、職員の協創マインドの醸成を図るとともに、公民連携を推進する本市の取組実績、行政課題及びニーズを庁内外に発信・周知し、公民連携の推進を図る。 民間からの積極的な提案を促すとともに、対話を重ねながら民間のアイデアやノウハウを最大限活用し、本市の地域課題の解決及び事務事業の改善に資する提案を確実に事業化する。行政と民間とが「公共」をともに担い、効率的・効果的・持続的に公共サービスを提供することを目指す。 <p>【デジタル推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、データ利活用を含むデジタルスキルの習得に向けた研修メニュー等を整備し、トップランナーの育成と、職員のデジタルスキルの底上げを図る。 積極的なオープンデータ公開を継続するとともに、「活用されるデータ」を追求するため民間事業者等の主体と、引き続き情報交換、研究を行う。 			

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	4	2			

【評価基準】 A: 高い成果が得られた B: 予定どおりの成果が得られた C: 一定の成果が得られた D: やや不十分な成果にとどまった E: 成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
③-1 協創連携に向けたイベント・ワークショップ参加者数(人)(累計) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>438</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>547</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	438	R4実績値	547	達成状況	○	③-A 民間企業等からの相談・提案件数(件)(累計) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>8</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>39</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	8	R4実績値	39	達成状況	○
R4目標値	438												
R4実績値	547												
達成状況	○												
R4目標値	8												
R4実績値	39												
達成状況	○												
③-2 オープンデータ公開件数(件) <table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>335</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>384</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R4目標値	335	R4実績値	384	達成状況	○							
R4目標値	335												
R4実績値	384												
達成状況	○												

■ 令和4年度評価結果
B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	3-2-2	協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出
-----	-------	---------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	イコマニア・イベントの実施	市民生活に活力を生み出し、イベントを通じて人的ネットワークを拡大し地域力を向上させるため、市民・団体との協働で行われる楽しい公共・公益イベントを「イコマニア・イベント」として認定し、情報発信することで、楽しく活力のあるまちづくりを実現します。
■令和4年度取組状況(D) ・認定したイベントについて、「イコマニア」イベントとして、ロゴマークの使用許可、ロゴマーク付きののぼりや横断幕の貸出、広報いこまちや市HP等への掲載などで情報発信を行い、広くイベントを周知する広報支援を行った。 ・イベント主催者に対する傷害保険、賠償責任保険に加入し、スタッフや参加者の安全の確保を図った。		
■成果(C)		■課題(C)
市と市民、団体との協働によるイベントを支援し、市民がまちづくりに触れ合える機会が増えたことで、市民活動の活性化と賑わいのある楽しいまちづくりへ繋がった。また、認定したイベントをイコマニア・イベントとして広報紙等で市民に情報発信することで、市民等が開催する各イベントの参加者が増え、楽しく活力のあるまちづくりに寄与した。		新型コロナウイルス感染症の蔓延により、イベントを開催しづらい状況が続いていたが、今年度は、これまで活動を自粛していた団体も活動を再開させる等、コロナ前の開催状況に戻りつつある。地域に賑わいと活力をもたらす同事業を再稼働させることが、地域に元気と賑わいと活力をもたらすものとする。
■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)		
今後もイベントの周知及び市民の参画と協働を促進し、地元「いこま」の楽しい公共・公益イベントを「イコマニア」イベントとして認定することで、にぎわいのある楽しいまちづくりを進めていく。また、「まちサボいこま」や「BASE生駒」を通じて新しく生まれる公益活動や市民活動も、市民活動推進センターと連携して「イコマニア事業」として育成、定着させていく。新型コロナウイルス感染症が収束する中でも、認定したイベントの主催者には感染症拡大防止対策等にも配慮しつつ、「楽しく活力のあるまち」として様々なイベントが安全に開催されるまちを目指し取り組んでいく。		

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	2	1	4			
・「生駒市」という範囲で物事を捉えるのではなく、奈良県や近畿圏、全国などと比較し、戦略を強化されたい。人々が、どのようなライフスタイルを求めて生き、働き、暮らしているかを分析することで、成果に結びつくのではない。						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
①-1 イコマニア認定事業開催回数(回)	①-A 「市民参加が盛んなまち」というイメージを持つ人の割合(%)												
<table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>424</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>274</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	424	R4実績値	274	達成状況	×	<table border="1"> <tr><td>R4目標値</td><td>8.8</td></tr> <tr><td>R4実績値</td><td>6.3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R4目標値	8.8	R4実績値	6.3	達成状況	×
R4目標値	424												
R4実績値	274												
達成状況	×												
R4目標値	8.8												
R4実績値	6.3												
達成状況	×												

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

小分野	3-2-3	文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成
-----	-------	---

■具体的な取組(P)

①	文化芸術活動・地域スポーツへの参画機会の創出	小学校のブラスバンドや中学校の吹奏楽をはじめ、本市は音楽活動が非常に盛んであることから、地域の音楽活動を更に広げるため、市民自らが企画・提案し創り上げる音楽会や、子育て世帯が親子で参加できる音楽会を開催するなど、子育て世帯をはじめとした文化芸術活動への参加を促進します。また、働き盛り世代や子どもをはじめ誰もが身近にスポーツを楽しむよう、地域スポーツの中心的存在として活躍が期待されている総合型地域スポーツクラブと連携して、個々のライフスタイルに応じた、スポーツを楽しめる場を創ります。さらに、市体育施設指定管理者等と連携し、市内スポーツ施設を活用したトップアスリートと触れ合えるスポーツイベントを積極的に開催します。	生涯学習課 スポーツ振興課
---	------------------------	---	------------------

■令和4年度取組状況(D)

【生涯学習課】 令和4年度においても感染防止対策を講じながら、「市民みんなで創る音楽祭」のほか、市民吹奏楽団事業を実施した。「市民みんなで創る音楽祭」では、市民団体から提案があり採択した10公演を予定どおり開催するとともに、小中学校(5校)へのアウトリーチ事業を実施した。吹奏楽事業においても、市民吹奏楽団3チームによる「いこすいフェスタ」のほか、乳幼児連れで楽しんでいただく「0才から楽しめるファミリーコンサート」、市内の小・中学校、高校の吹奏楽部及び社会人の吹奏楽団が一堂に会する「いこま吹奏楽の日」を開催した。各事業を通して、子どもたちや子育て世代に音楽に身近にふれる機会を提供するとともに、音楽活動への参画の機会とした。	【スポーツ振興課】 令和4年度においても感染防止対策を講じながら、いこまスポーツの日、障がい者のスポーツ活動支援、体育館無料開放事業、ファミリースポーツの集いなど、スポーツを始めるきっかけとなる事業を開催した。また、子どもの体力向上施策として、小学生水泳競技大会や、IKOMAマラソンチャンピオンシップなども開催した。なお、総合型地域スポーツクラブの活動は、コロナ禍の影響はあったものの、各クラブの活動内容の周知啓発を行った結果、会員総数は増加した。
---	--

【生涯学習課】 「市民みんなで創る音楽祭」は全体で2,932人の来場を得るとともに、小・中学校へのアウトリーチを実施し(5校・652人)、青少年への音楽教育にも寄与した。「0才から楽しめるファミリーコンサート」は2回公演で開催し、子育て世代を中心に1,371人が来場。「いこすいフェスタ」には582人、「いこま吹奏楽の日」には1,500人が来場され、いずれも高い集客率となった。音楽事業を通して、市民に芸術文化に身近に親しむ機会を提供するだけでなく、市民自身が企画運営や演奏者として主体的に関わるなど、市民との協働による「音楽のまち生駒」の推進や音楽文化を担う人材の拡充につながった。	【生涯学習課】 吹奏楽活動は子どもから大人まで幅広い世代の市民により活発に行われており、吹奏楽イベントにおいても子育て層を中心に多世代の来場がある。また、「市民みんなで創る音楽祭」においても、担い手が少しずつ多世代に広がりつつあるが、来場者はシニア層に偏っている現状があり、その他の文化芸術事業においても参加者はシニア層が中心の傾向がみられる。子どもや働き盛り世代にも参加してもらえるような内容や周知、実施手法の工夫とともに、音楽文化にかかわる人材の拡大に向け、「市民みんなで創る音楽祭」においては、幅広い世代の新規参画の団体数がさらに増えるような働きかけが必要である。
【スポーツ振興課】 令和3年度に続き、総合型地域スポーツクラブや各施設の指定管理者と連携し、「いこまスポーツの日」を開催。各種軽スポーツの体験や、バルサアカデミー奈良校によるサッカー教室、リレーマラソン、eスポーツ体験会に加え、令和4年度は、芝生でピラティスや、バラスポーツの周知啓発のためパラリンピックメダリストの山本篤選手による小学生を対象とした陸上教室を開催した。また、障がい(児)者のスポーツ活動を支援するため、企業版ふるさと納税を活用し、スポーツ用車いすの購入や、車いすバスケットボール体験会、障がい児を対象とした「体づくり運動プログラム」モデル事業を実施した。	【スポーツ振興課】 ライフスタイルが多様化する中、様々なライフスタイルに応じたスポーツ機会を提供する必要があるため、地域スポーツ推進の中心的存在として活躍が期待されている「総合型地域スポーツクラブ」の更なる周知啓発と活動支援の必要がある。また、学校部活動の地域移行や地域連携については、国からは一定の方針が出され、県からも今後方針が出されることから、引き続き国や県などと調整を図りつつ、今後は運営主体の構築や運営主体の組織強化、指導者の確保や養成などを行う必要がある。

■成果・課題を踏まえた令和5年度の取組予定(A)

【生涯学習課】 「市民みんなで創る音楽祭」の企画提案を募り、多様なジャンルの音楽を多世代に届けるとともに、音楽文化の担い手の裾野を広げる。生駒音楽芸術協会や市民吹奏楽団及び各校の吹奏楽部、生涯学習施設とのさらなる連携のもと、さまざまな音楽事業を開催し、市民が音楽に親しむ機会や日頃の成果発表の場を拡充しながら、市民との協働による「音楽のまち生駒」のさらなる推進を目指す。	【スポーツ振興課】 市民の誰もが個々のライフスタイルやライフステージに応じて、身近にスポーツを楽しむため「総合型地域スポーツクラブ育成・支援」や「いこまスポーツの日」、障がい者のスポーツ活動支援などの取り組みを引き続き推進する。また、休日の学校部活動の地域移行も見据え、将来にわたるスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため、運営主体となる「新たな地域クラブ推進協議会」を設立し、地域の持続可能で多様な環境を整備するため、実施主体となる市内スポーツ関係団体などとの連携を図る。
--	--

■総合戦略会議からの令和4年度の取組状況に対する評価・コメント

参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント ・施策の目的は「文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成」である。「まちへの愛着やシビックプライドの醸成」が育まれているかどうかの評価をどのように見える化していくのか、検討が必要。
	2	1	4			

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■ KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 市民みんなで創る音楽祭の参加者数(人)	①-A 生駒市に住んでいることに誇りを持っている働き盛り世代の割合(%)
R4目標値 5,350	R5目標値 59.3
R4実績値 2,932	R5実績値 49.3
達成状況 ×	達成状況 ×
①-2 0歳から楽しめるファミリーコンサートの参加者数(人)	①-B 生駒市に住んでいることに誇りを持っている若年世代の割合(%)
R4目標値 1,270	R5目標値 65.7
R4実績値 1,371	R5実績値 49.8
達成状況 ○	達成状況 ×
①-3 スポーツイベントの参加者数(人)	
R4目標値 41,300	
R4実績値 40,310	
達成状況 ×	
①-4 総合型地域スポーツクラブの会員数(人)	
R4目標値 950	
R4実績値 981	
達成状況 ○	

■ 令和4年度評価結果

B : 予定どおりの成果が得られた

附属資料

1 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略〔令和2年(2020)年度ー令和6(2024)年度〕(以下「第2期総合戦略」という。)第1章の推進体制として掲げる生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議(以下「戦略会議」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(戦略会議の開催)

第2条 戦略会議は、総合戦略の進捗状況の検証を客観的に行う必要から、外部有識者等の意見を聴くために開催するものとする。

(参加者)

第3条 市長は、第2期総合戦略を策定するに当たり開催した生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議開催要綱(令和元年8月16日施行)による生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の参加者のうちから戦略会議への参加を求めるものとする。

2 市長は、必要があると認めるときは、前項に規定する者以外の者に戦略会議への参加を求めることができる。

3 前2項に定めるもののほか、市長は、戦略会議の座長として学識経験のある者の参加を求めるものとする。

4 市長は、原則として、同一の者に継続して戦略会議への参加を求めるものとする。

(運営)

第4条 座長は、戦略会議を進行するものとする。

2 市長は、必要があると認めるときは、関係者に戦略会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

3 市長は、必要があると認めるときは、戦略会議を部会に分けて開催することができる。

(開催期間)

第5条 戦略会議の開催期間は、第2期総合戦略の進捗状況の検証が終了する時までとする。

(庶務)

第6条 戦略会議の庶務は、総合戦略を総括する課において処理する。

(施行の細目)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年1月25日から施行する。

2 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 参加者名簿

選出区分	氏名	所属母体・役職等
アドバイザー	ヒサ タカヒロ 久 隆浩	近畿大学 総合社会学部 教授
産業界	オオハラ サトシ 大原 暁	生駒商工会議所 専務理事
地域金融機関	ホリベ ヤスフミ 堀部 泰史	(株)南都銀行 生駒支店 支店長
政府系金融機関	ミウラ ヒロシ 三浦 博	(株)日本政策金融公庫 奈良支店 支店長
労働団体	ウラク ボ ユキヒロ 浦 久保 幸 浩	連合奈良 西和地域協議会 議長
メディア	テツトウ アツシ 鐵 東 敦史	(株)エヌ・アイ・プランニング 代表取締役
その他市長が必要と認める者	イシカワ チアキ 石川 千明	いこま育児ネット 総代表

3 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価集約表

【評価基準】A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本目標	基本的方向	施策	具体的な取組	施策内容	担当部	担当課	評価	
1-1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する								
1-1-1 出産に対する経済的支援	①	不妊治療費及び一般不妊治療費助成	子どもを望む夫婦の出産に関する経済的な負担を軽減するため、不妊症治療費や一般不妊治療費に対する助成を行います。		福祉健康部	健康課	C	
			② 母子保健の充実	健やかな妊娠・出産を迎えるため、妊婦一般健康診査の費用助成を行います。また、疾病の早期発見・治療、障がいの早期発見、育児支援等のため、乳幼児健康診査・訪問指導・育児教室・子育て相談などを行います。		福祉健康部		健康課
1-1-2 産前産後ケアの充実	①	マタニティコンシェルジュの配置	妊娠・出産・育児に関する様々な不安解消のため、専門職であるマタニティコンシェルジュを配置し、母子健康手帳交付時からの全妊婦との面接、ケアプランの作成、各種サービスの案内など、妊産婦を細やかにサポートします。		福祉健康部	健康課	B	
			② 産後サポートの充実	産後の心身の安定と育児不安を解消するため、各種育児相談に応じるほか、産婦・新生児や乳児訪問、家庭訪問を実施します。また、健康づくりリーダー等が、産婦や子育て中の保護者の相談相手やサポート役になります。		福祉健康部		健康課
1-2 子育て世帯の時間のゆとりをつくる								
1-2-1 就学前保育の機能強化	①	保育所の整備	増加する保育需要に対応するため、従来から取り組んでいる保育所の整備や幼稚園のごども園化に加え、小規模保育事業や市内企業への働きかけによる企業主導型保育事業を推進し、待機児童の多い地域を中心にその解消に取り組みます。		教育こども部	幼保こども園課	B	
			② 保育士の確保	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促し、待機児童の解消に取り組みます。		教育こども部		幼保こども園課
			③ 保育コンシェルジュの活用	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、保育コンシェルジュを配置し、保育の需要と供給のミスマッチを解消することで、待機児童の解消に取り組みます。		教育こども部		幼保こども園課
			④ 就学前保育・教育サービスの充実	働き方が多様化することに伴う、就学前保育・教育サービスのニーズの多様化に対応するため、保育所における延長保育や一時預かり保育、休日保育、病児・病後児保育等を実施するとともに、幼稚園における預かり保育を実施します。また、時代に応じた就学前保育・教育ニーズの変化を把握し、さらなるサービスの充実に向けた検討を行います。		教育こども部		幼保こども園課
1-2-2 学童保育の機能強化	①	学童保育の充実	増加する保育需要に従って増加する学童需要に対応するため、学童保育環境の改善を図るとともに、柔軟な働き方や待遇改善を進めながら学童指導員の確保に取り組みます。また、民間保育事業者における学童保育事業を推進します。		教育こども部	こども総務課	B	
1-3 子育て世帯にとって魅力的な教育を行う								
1-3-1 教育環境の充実	①	ICTを活用した教育の推進	教員の指導力の育成を図るとともに、分かりやすい授業を実施し、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境を整え、確かな学力を育成するために、ICT機器を積極的かつ効果的に活用した授業を行います。また、小学生からのプログラミング教育の必修化に対応した取組を進め、奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校との連携を進めます。		教育こども部	教育指導課	C	
			② 英語教育の推進	小学校で英語の基礎的な力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図るため、小中9年間を見通したカリキュラムを作成したうえで外国語指導助手（ALT）の配置や、小学校1年生から独自の教材を使用する等、子どもの興味関心を引くよう工夫しながら、小学校のすべての学年で英語教育に取り組みます。		教育こども部		教育指導課
			③ 夢を与える講演会・学校創造推進事業	自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って、将来、社会で活躍できる人材の育成に努めていくため、市民や市出身者をはじめとする各界で活躍する方（文化人、スポーツ関係者、事業者等）を招き、子どもたちが優先して参加できる、夢を与える講演会を実施するなど、特色ある教育活動を実施します。また、子どもたちが、失敗を恐れず、新しいチャレンジに挑戦できる機会を確保できるよう支援します。		教育こども部		教育指導課
1-4 コミュニティ形成等を通して子育て世帯の精神的なゆとりをつくる								
1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進	①	子育て世帯向けの多様な情報発信	子育て世帯が子育てに関する情報を容易に取得できるよう、妊娠・出産・子育てに関する知識やスキルを修得するための機会や情報を提供する講座を開催するとともに、乳幼児の予防接種や定期健診等のスケジュールなどの情報を、電子版親子手帳やオープンデータを活用した多様なツールを利用して発信していきます。		教育こども部 福祉健康部 地域活力創生部 市長公室	子育て支援総合センター 健康課 デジタル推進課 広報広聴課	B	
1-4-2 子育て世帯の交流促進	①	子育て世帯同士の学び・交流支援	子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て支援総合センターを中心とした子育て相談や育児教室の開催、幼稚園・保育所で未就学児や保護者が遊び集える場を提供する子育て広場など、子育て世帯同士の学び・交流の機会を充実し、子育てを支え合う取組や活動を支援します。また、地域と連携し、地域内で子育て世帯が交流できる場を設けます。		教育こども部	子育て支援総合センター 幼保こども園課	C	
1-4-3 地域で子育てを見守る体制の強化	①	地域・行政・周囲のひとによる子育ての見守り強化	子育て世帯の孤立化を防ぎ、子どもたちが安心して成長できるよう、乳幼児を持つ家庭への訪問による見守り、相談等を実施し、虐待等の未然防止に努めるとともに、家庭、保育機関、学校、地域等が連携して子どもの人権や安全を守る意識を育てます。		教育こども部 福祉健康部	子育て支援総合センター 健康課	B	
			② ファミリー・サポート事業の利用促進	ファミリー・サポート事業の会員登録を進め、地域における育児の相互援助活動を推進し、地域全体で子どもたちの成長を見守り、子育て世帯の孤立化防止につなげます。		教育こども部		子育て支援総合センター
1-5 子育て世帯が安心して生活できる地域をつくる								
1-5-1 災害・犯罪等に対する安全性の向上	①	指定避難所への防災備蓄	災害時における住民の防災力を強化し、自主防災活動を活性化するため、災害用備蓄倉庫を備えていない指定避難所における資機材整備を進めます。		総務部	防災安全課	B	
			② 自主防災会の活動支援・促進	自主防災活動を活性化するため、自主防災会が自らの地域に根ざした防災訓練を実施し、自主防災組織間のつながりや協力体制の強化を促します。学校区単位での防災訓練の実施、企業や市民団体と連携した活動を行うことで地域の防災力を強化します。		総務部		防災安全課
			③ 自主防犯活動の支援・促進	犯罪の起こりにくい明るいまちを築いていくため、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識の高揚や地域によるパトロール等の防犯活動など、地域による自主防犯活動を支援します。		総務部		防災安全課
			④ 通学路等安全対策	子どもを交通事故や犯罪から守るため、「生駒市通学路交通安全プログラム」及び国の「登下校防犯プラン」に基づき、関係機関と連携して、各小学校の通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路等の合同点検を実施し、安全に安心して通学等ができる環境整備を進めます。また、市民の協力による「子ども110番の家」の設置を推進し、子どもが犯罪に巻き込まれないよう地域で子どもを守ります。		教育こども部 総務部 建設部 福祉健康部		教育総務課 幼保こども園課 防災安全課 管理課 事業計画課 土木課 障がい福祉課

[評価基準] A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本目標	基本的方向	施策	具体的な取組	施策内容	担当部	担当課	評価	
2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち								
2-1 職場での多様な働き方を広げる								
2-1-1 働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現			①	ワーク・ライフ・バランスの普及啓発	仕事と家庭の両立を促進するため、生駒商工会議所との連携による市民や事業者へのワーク・ライフ・バランスについての意識啓発や、市役所や市内事業所を対象に、育児休業等の取得促進、ワーク・ライフ・バランス先進企業等の取組の紹介など、子育てしながら就業しやすい環境づくりを支援します。	市民部	男女共同参画プラザ	B
			②	テレワーク等の推進	ワーク・ライフ・バランスの実現や子育て世帯の女性の就業機会を拡大するとともに、働き盛り世代の市内就労を促進するため、テレワークの導入支援やサテライトオフィスの誘致等テレワークの普及促進に取り組みます。	地域活力創生部	商工観光課	
			③	女性の活躍推進	男女がそれぞれ、個性や能力を発揮した生きがいのある人生を送れるよう、事業者と連携し、家庭や職場、地域社会等における女性の活躍促進に取り組み、それぞれが自分の能力や個性を輝かせ、自分らしく生きることが出来る社会を目指します。また、市役所においても、女性管理職の積極的な登用や附属機関等への女性委員の参加促進に取り組みます。	市民部 市長公室	男女共同参画プラザ 人事課	
			④	就業意欲がある人の支援	市内企業の安定的な経済活動を支援するとともに、就業意欲のある人を応援し、多様な人材の雇用確保に取り組み、ハローワーク等と連携して、市内の就職情報を提供できる環境整備や情報の提供・周知を行うこと等により、子育て中の女性やスキルを持った高齢者など多様な人材への就業支援を行います。	地域活力創生部	商工観光課	
2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる								
2-2-1 産業の活性化			①	企業立地の推進	市内で雇用を生み出し、地域経済循環を活性化させるため、県担当課と連携した工業団地周辺の基盤整備や補助、支援制度の展開など、魅力ある操業環境を整え、企業や研究施設の立地に取り組みます。	地域活力創生部	商工観光課	B
			②	既存企業への支援	これまで地域を支えてきた既存企業の安定的な経済活動を維持・拡大するため、生駒商工会議所と連携して、既存企業の経営の安定化や販路の拡大を支援し、安定した雇用確保に取り組みます。	地域活力創生部	商工観光課	
2-2-2 起業支援			①	起業希望者・起業家間のマッチング及び起業マインドの醸成	起業希望者によるビジネスの立ち上げを支援するため、起業希望者・起業家間のマッチングや事業活動の立ち上げを支援する起業支援者との交流会を開催します。また、早い段階から起業など多様な働き方に対する意識を醸成するため、様々なスキルを有する市民や団体、企業と協働し、子どもたちの生き抜く力の育成や未来を描くことができるセミナーを開催します。	地域活力創生部 生涯学習部	商工観光課 生涯学習課	B
			②	起業者を育成支援する体制づくり及び情報発信	起業希望者や起業家間もない人を支援するため、ベルテラスにのイベントや起業支援スペースから芽生えた起業意欲のある方に対し、店舗経営のノウハウの継承・指導やチャレンジする機会を設けるなど包括的な起業者の育成支援を実施します。また、そうした支援を効果的に行うための情報発信や起業支援セミナーの開催などを行います。	地域活力創生部	商工観光課	
2-3 今後需要の増加が見込まれる事業分野における仕事や人材を育てる								
2-3-1 子育て分野における就労の促進			①	保育士の確保【再掲】	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促します。	教育こども部	幼保こども園課	C
			①	介護関係資格取得費の支援	市内の介護施設等で働く介護人材等の不足を解消するため、資格の取得等にかかる費用の支援等を行うことで地域人材を活用し、介護人材不足の解消につなげます。	福祉健康部	介護保険課	B
2-3-2 介護分野における就労の促進			①	プロ農業者の確保と育成	農業の活性化と農業者の営農意欲を向上させ、プロ農業者を育成するため、農地の積極的な斡旋、農地情報の提供、営農相談、設備投資支援等による新規就農者や既存農業者への支援を拡充することにより、地域農業の振興に努めます。また、農業に関するノウハウを共有するため、民間事業者や大学等と協議を進めます。	地域活力創生部	農業委員会事務局 農林課	B
			②	農作物の販売支援	農業者の収入を増やし、営農意欲を向上させるため、小規模農業者の推進や地場野菜等の流通促進、学校給食用食材の利用拡大、農作物のブランド化、6次産業化の促進などに取り組み、プロ農業者だけでなく小規模農業者の販売促進につなげます。	地域活力創生部	農林課	

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本目標	基本的方向	施策	具体的な取組	施策内容	担当部	担当課	評価
3 働き盛り世代が住みたいまち							
3-1 働き盛り世代が移り住みたいまちをつくる							
3-1-1 まちの魅力発信や観光・交流の促進による流入人口の拡大	①	いこまの魅力創造事業	市のイメージを向上させ、市外に住む働き盛り世代からの興味関心を喚起するため、シティブロモーションサイト「good cycle ikoma」や市公式フェイスブックの運用、各種広告などにより、多様な暮らし方や多様な住まい方が可能なまちであることや市の魅力を市民協働で発信します。また、魅力体験イベント「IKOMA SUN FESTA」をはじめとした各種事業により、将来住民になる可能性のある方々に対して生駒暮らしの魅力を伝えます。	市長公室 地域活力創生部	広報広聴課 商工観光課	B	
		② 観光・交流の促進	観光関連事業者等と連携して、民間のノウハウや知識を活用しながら、観光客受け入れのために必要なサインの整備や観光客向け体験型コンテンツの企画を行うとともに、SNS等を活用して国内外に観光情報を発信して魅力のPR等に努めます。事業者等がこれらの活動を主体的に取り組むことができるよう支援することにより、市内を訪れる観光客数や流入人口の増加を目指します。	地域活力創生部	観光振興室		
3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進	①	空き家の流通促進と住宅のリノベーションの推進	多様な住まい方・暮らし方への受容と理解を図りながら、空き家の流通を促進し、良好な中古住宅の活用を推進するため、空き家流通施策やリノベーション事例の発信を広く効果的に展開します。また、事業者と一体となって、近居・住み替えニーズの掘り起こしと魅力的な賃貸住宅の供給策を検討するなど、本市にふさわしい土地利用のあり方を考えます。	都市整備部	住宅政策室 都市計画課	B	
		② 移住支援金の交付	県が中心となり国の認定を受けた地域再生計画に基づく施策として、人口の東京一極集中を是正し、地方へのUターンを促すため、東京23区在住者又は23区への通勤者が本市に移住し、県内の対象法人に就業、又は起業した場合、移住支援金を交付します。	地域活力創生部	商工観光課		
		③ 既存住宅の診断や改修に対する支援による流通促進	耐震改修やリフォーム、バリアフリー化に関する相談窓口等を設置するとともに、耐震化に対する支援を行うことにより、既存住宅の流通を促進します。	都市整備部	住宅政策室 建築課		
3-2 働き盛り世代を中心に幅広い世代が住み続けたいまちをつくる							
3-2-1 多様な主体との協創による都市ブランド形成	①	いこまの魅力創造事業	市民PRチーム「いこま宣伝隊」やシティブロモーションサイト「good cycle ikoma」の運用、魅力体験イベント「IKOMA SUN FESTA」の実施をはじめ、庁内外の連携によって生駒の人・モノ・コトと出会い、このまちに暮らしやすさを感じられる場、多様な人と人の関係性が育まれる場をつくり、また、新しい暮らし方をする人や能動的にまちで活動する人の活動のサポートや、継続的な発信によって、一過性のプロモーションではなく、生駒らしい都市イメージを形成し、暮らし続けたいと思える人の増加を目指します。	市長公室 地域活力創生部	広報広聴課 商工観光課 市民活動推進センター	B	
		② 地域特性に応じたまちづくり（ミライ会議）	暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来課題を知り、永く楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、実現を目指すためのきっかけの場（ミライ会議）をつくり、地域住民による地域主体のまちづくりを目指します。	都市整備部 地域活力創生部	都市計画課 住宅政策室 地域コミュニティ推進課		
		③ ICTや民間活力を活かしたまちづくり	人口構造の変化に伴う多様な地域課題に対応するため、Society5.0の実現に向けてICTやデータの活用を進めるとともに、民間のノウハウや知識の導入をはじめ、地域課題解決ワークショップを開催するなど、多様な主体との協創連携を進めます。そうすることで、公共サービスの価値を高め、まちの魅力向上を目指します。	地域活力創生部	デジタル推進課 SDGs推進課		
3-2-2 協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出	①	イコマニア・イベントの実施	市民生活に活力を生み出し、イベントを通じて人的ネットワークを拡大し地域力を向上させるため、市民・団体との協働で行われる楽しい公共・公益イベントを「イコマニア・イベント」として認定し、情報発信することで、楽しく活力のあるまちづくりを実現します。	地域活力創生部	地域コミュニティ推進課	B	
3-2-3 文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシンギングプライドの醸成	①	文化芸術活動・地域スポーツへの参画機会の創出	小学校の brassバンドや中学校の吹奏楽をはじめ、本市は音楽活動が非常に盛んであることから、地域の音楽活動を更に広げため、市民自らが企画・提案し創り上げる音楽会や、子育て世帯が親子で参加できる音楽会を開催するなど、子育て世帯をはじめとした文化芸術活動への参加を促進します。また、働き盛り世代や子どもをはじめ誰もが身近にスポーツを楽しめるよう、地域スポーツの中心的存在として活躍が期待されている総合型地域スポーツクラブと連携して、個々のライフスタイルに応じた、スポーツを楽しめる場を創ります。さらに、市体育施設指定管理者等と連携し、市内スポーツ施設を活用したトップアスリートと触れ合えるスポーツイベントを積極的に開催します。	生涯学習部	生涯学習課 スポーツ振興課	B	